

スヘシ)

第三附録

千八百六十七年十一月八日ノ獨逸領事館ノ編制及ヒ領事ノ權利義務規則ハ「バーデン」「ヘッセン」憲法第八十條「四ニ因テ」「バーデン」「南」「ヘッセン」國ニ行ハレ千八百七十年十一月二十五日ノ條約ニ項六ニ因テ「ヴュルンデンベルヒ」國ニ行ハレ千八百七十一年四月二十二日ノ法律第三條ニ因テ一箇條ヲ追加シタル上「バイエルン」國ニ行ハルヘシ

第四附録

千八百七十二年七月一日ノ帝國領事館ノ手数料及ヒ費用規則
(獨逸法律全書二百四十五帖)

第五附録

千八百七十年六月六日ノ帝國領事ノ事務章程

十一 帝國陸軍

第一附録

憲法第四條十四ヲ見合スヘシ

第二附録

千八百七十二年六月二十三日ノ陸軍軍制ヲ「エルザス」「ロートリンゲン」ニ施行スル規則(獨逸法律全書三十一帖)
此規則第一條ニ因リ憲法第五十七條ヨリ第五十九條マテ第六十一條第六十三條ヨリ第六十五條マテ「エルザス」「ロートリンゲン」ニ施行シタリ

獨逸憲法

第五十七條 獨逸人ハ何人タリトモ兵役ニ應スル義務アリ代理人ヲシテ其義務ヲ行ハシムルコトヲ得ス

第一附録

千八百六十七年十一月九日ノ兵役義務規則（獨逸法律全書百三十一帖及ヒ千八百六十八年三月二十六日ノ補缺兵規則ヲ見合スヘシ）

此規則ハ「バーデン」「ヘッセン」憲法第八十條一五ニ因テ「バーデン」「ヘッセン」ニ行ハレ千八百七十年十一月二十五日ノ條約第二條六ニ因テ「ヴュルデンベルヒ」國ニ行ハレ千八百七十一年十一月二十四日ノ法律ニ因テ制限シタル上「バイエルン」國ニ行ハレ千八百七十二一年一月二十三日法律第二條ニ因テ「エル

ザス」「ロートリンゲン」ニ行ハルヘシ

第二附録

憲法第五十三條四項ヲ見合スヘシ

第五十八條 帝國陸軍ノ費用及ヒ義務ハ各國及ヒ其人民ニテ平等ニ負擔シ各國又ハ人民ニ等級ヲ分テ例外ヲ爲スヘカラス公安ヲ害セスシテ物件ニテ義務ヲ平等ニ配當スルコト能ハサルハ法律ヲ以テ公平ニ其差ヲ均一ナラシムヘシ

千八百七十一年十一月十一日ノ帝國軍用金ノ準備規則（獨逸法律全書四百三帖）又千八百七十一年十二月十八日ノ普國政府ノ準備金ヲ廢スル規則ヲ見ルヘシ（普國法律全書五百九十三帖）

第五十九條 兵役ニ適スル獨逸人ハ何人タリトモ七年間通常滿二十

歳ヨリ滿二十八歳ノ初期マテハ常備兵（最初三年間ハ現役ニ服シ後四年間ハ豫備ニ屬スヘシ）ニ其後五年間ハ後備兵ニ屬スヘシ舊來各國ニ於テ十二年以上ノ兵役期限ヲ定メタルモノハ漸次ニ其期限ヲ減スヘシト雖モ帝國軍隊ノ準備ヲ害スヘカラス

豫備兵ノ移住ニ付テハ後備兵ノ移住ニ係ル規則ニ從フヘシ

又千八百六十七年五月九日ノ兵役義務規則第十五條千八百七十年六月一日ノ獨逸及ヒ各國ノ國民權ノ得失規則第十五條第十七條及ヒ獨逸刑法第四百十條第三百六十條三ヲ見合スヘシ

第六十條 帝國常備兵ノ平時定員ハ千八百七十一年十二月三十一日ニ至ルマテ千八百六十七年ノ人口調書ニ因リ人口百分ノ一トシ其部合ヲ以テ各國ヨリ出スヘシ其後平時定員ヲ増減スルニハ帝國ノ法

法律ヲ以テ爲スヘシ

千八百七十一年十二月九日ノ千八百七十二年ヨリ千八百七十四年ニ至ル帝國常備兵ノ平時員數及ヒ其行政費用規則（獨逸法律全書四百十二帖）

第六十一條 此憲法頒布後ハ普國軍制ニ係ル法律及ヒ其施行説明増補規則布達則チ千八百四十五年四月三日ノ軍律同年同月同日ノ軍治罪法千八百四十三年七月二十日ノ榮譽裁判所規則及ヒ徵集職務期限、賄費、賄、旅宿、田畠損害償金、出陣等ノ規則ハ戰時平時ヲ問ハス全國内ニ施行スヘシ但軍事社寺規則ハ此限ニ在ラス
帝國陸軍編制ヲ平等ニ施行シタル後ハ帝國軍制ヲ下院及ヒ連邦委員局ニ呈出シ憲法ニ因テ之ヲ議決スヘシ

第一附錄

本條第一項ニ因リ帝國長ヨリ左ノ布告ヲ發シタリ

①千八百六十七年十一月七日ノ普魯西軍制ヲ獨逸内ニ施行スル規則(獨逸法律全書百二十五帖)此規則ニ因テ施行シタル普國ノ法律及ヒ布達(已ニ廢シタルモノハ格別ナリ)

一千八百十年十月二十八日ノ車馬ヲ廢スル規則(普國法律全書七十七帖)及ヒ其増補説明特ニ千八百十六年五月二十九日ノ車馬ヲ出スヘキ義務規則(普國法律全書二百一帖)千八百二十年一月五日ノ士官所屬ノ車馬ヲ出スヘキ義務ナキ規則(普國法律全書三十二帖)千八百三十七年七月十四日ノ千八百十六年五月二十六日ノ規則中第三條ノ遊樂ニ供スル車馬ニ係ル説

明(普國法律全書百七十帖)千八百十四年五月十日ノ車馬ヲ出スヘキ義務者ヨリ乘馬ヲ出スヘキ義務規則(普國法律全書百四十七帖)

二、千八百十年十月三十日ノ秣草及ヒ麵麩ノ給與ヲ廢スル規則(普國法律全書七十八帖)及ヒ千八百五十八年五月十三日ノ平時軍隊賄規則第二十三條第二十四條第二十五條第三十條第三十二條第三十三條第七十七條第八十條第八十一條第八十二條第六百六十四條(獨逸法律全書千八百六十七年ノ百二十八帖)又此規則ハ千八百七十一年七月十四日ノ法律第一條ニ因テ「エルザス」「ロートリンゲン」ニ施行シタリ
三、千八百五十年二月二十七日ノ召集セラレタル豫備後備兵ノ

貧窮ナル家屬ヲ救助スル規則ナリ(普國法律全書七十帖)此規則ハ千八百六十八年四月八日ノ法律ヲ以テ(獨逸法律全書三十八帖)召集サレタル補缺兵ノ貧窮家屬ニ及シタリ千八百七十一年十一月二十二日ノ法律ニ因リテ「バーデン」國ニ施行シタリ(獨逸法律全書三百九十九帖)又千八百七十一年十二月四日ノ豫備後備兵ノ貧窮家屬ニ給シタルカ又ハ後來給スヘキ救助ノ償金規則ヲ見合スヘシ(獨逸法律全書四百七帖)

⑩千八百六十七年十二月二十九日ノ普國軍律ヲ獨逸國內ニ施行スル規則(獨逸法律全書百八十五帖)此規則ニハ普國ニ行ハル、軍律及ヒ其布告布達ヲ附録シタリ
千八百七十一年十一月二十四日ノ法律ヲ以テ之ヲ「バーデン」

國ニ施行シタリ(獨逸法律全書四百一帖)

又千八百七十三年十二月六日普國軍治罪法ヲ「エルザス」「ロートリンゲン」ニ施行スル規則ヲ見合スヘシ

⑪千八百六十八年十二月二十二日ノ軍人ニ團結稅ヲ科スル普國法律ヲ獨逸内ニ施行スル規則(獨逸法律全書五百七十一帖)

第二附録

軍制ニ係ル獨逸及ヒ帝國ノ法律

①千八百七十二年六月二十日ノ帝國軍律及ヒ其施行法(獨逸法律全書百七十四條及ヒ百七十三帖)

②千八百七十三年六月三十日ノ帝國陸海軍ノ士官軍醫及ヒ帝國官吏ノ官宅料規則(獨逸法律全書百六十六帖)

千八百七十三年六月三十日ノ前規則ノ官宅料表ニ因リ帝國官吏ノ等級ヲ定ムル規則(獨逸法律全書百六十九帖)

① 千八百七十一年六月二十七日ノ陸海軍軍人及ヒ其遺屬ノ退隱料及ヒ救助金規則(獨逸法律全書二百七十五帖)

千八百七十一年八月十八日及ヒ同年十月十八日ノ施行法

二、千八百七十三年五月二十三日ノ帝國預備者救助資本ノ設立管理規則(獨逸法律全書百十七帖)

三、千八百六十八年六月十四日ノ古「シユレスツイヒ」ホルスタイン所屬ノ士官上等官吏及ヒ其寡婦孤兒ニ終身退隱料及ヒ救助金ヲ給スル規則

千八百七十年三月三日ノ古「シユレスツイヒ」ホンスタイン所屬ノ下等軍人及ヒ其寡婦孤兒ニ終身退隱料救助金ヲ給スル規則

千八百七十年五月三日ノ施行法

以上ノ兩規則ハ「バーデン」ヘツセン憲法第八十條一、九、二十

一、千八百七十年十一月二十五日ノ「ヅユルデンベルヒ」國條約第一條及ヒ第二條六及ヒ千八百七十一年四月二十二日ノ法律第二條一、五、十一ニ因テ南獨逸諸國ニ行ハルヘシ

② 千八百六十八年六月二十五日ノ平時軍人ノ旅宿規則及ヒ地方ノ旅宿賄料表及ヒ等級規則(獨逸法律全書五百二十三帖以下) 此規則ハ千八百六十九年四月二十六日及ヒ千八百七十年三月十七日ノ布告ヲ以テ改正シタリ(獨逸法律全書千八百六十九

年ノ百三十帖千八百七十年ノ五十二帖)千八百六十八年十二月三十一日ノ布告及ヒ同年六月二十五日ノ旅宿規則ヲ獨逸ニ施行スル布達千八百七十年九月三日ノ以上ノ布達第十五條ノ改正(獨逸法律全書千八百六十九年ノ一帖千八百七十年ノ五百十四帖)

千八百七十一年十一月二十二日ノ千八百六十八年六月二十五日ノ旅宿規則ヲ「バーデン」國ニ施行スル規則(獨逸法律全書四百帖)

千八百七十一年七月十四日ノ「エルザス」「ロートリンゲン」ニ於ケル平等軍人旅宿賄規則

⑤千八百七十三年六月十三日ノ軍事義務規則(獨逸法律全書百

二十九帖)此規則ハ千八百七十三年十月六日ノ法律ヲ以テ「エルザス」「ロートリンゲン」ニ施行シタリ

⑥千八百七十一年十二月二十一日ノ城塞近傍土地所有權制限規則(獨逸法律全書四百五十九帖)此規則ハ千八百七十二年二月二十一日ノ法律ヲ以テ「エルザス」「ロートリンゲン」ニ施行シタリ

千八百七十二年二月二十六日ノ千八百七十三年二月一日及ヒ同年三月二十七日ノ布達ヲ以テ城塞ノ周圍ヲ廣メタリ(獨逸法律全書千八百七十二年ノ五十六帖千八百七十三年ノ三十九帖及ヒ五十八帖)

⑦千八百七十一年六月二十二日ノ佛國戰爭拔群ノ者ニ土地償金

與フル規則(獨逸法律全書三百七帖)

④千八百七十一年五月二十日ノ千八百七十年及ヒ千八百七十一

年ノ戰爭ノ爲メ從軍牌ヲ設立スル規則及ヒ從軍牌規則(獨逸

法律全書百十一帖)

從軍牌規則ノ増加(獨逸法律全書千八百七十一年ノ百十三帖

千八百七十二年ノ八十四帖)

千八百七十一年五月二十四日ノ從軍牌費用規則(獨逸法律全

書千八百七十二年ノ百三帖)

第六十二條 帝國陸軍及ヒ其所屬建築物ノ費用ニ當テンカ爲メ千八

百七十一年十二月三十一日マテハ毎年第六十條ノ平時定員ノ數ニ

二百二十五「ターレル」ヲ乘シタル金額ヲ皇帝ノ所分ニ委スヘシ(憲

法第七十條及ヒ第十二章終尾ヲ見合スヘシ)

千八百七十一年十二月三十一日後ハ各國ヨリ帝國ノ出納局ニ其金

額ヲ完納スヘシ其金額ヲ計算スルニハ帝國ノ法律ヲ以テ改正スル

マテハ第六十條ニ假定シタル平時定員ニ因ルヘシ

帝國ノ陸軍及ヒ其建築物ノ金額ノ支出ハ會計豫算ノ法律ヲ以テ確

定スヘシ

陸軍支出豫算ヲ確定スルニハ此憲法ニ定メタル帝國陸軍ノ編制ニ

因ルヘシ

第一附錄

「バーデン」國ノ出金ニ付テハ千八百七十年十一月十五日ノ北

合衆國「バーデン」ヘツセン」間ノ條約調書七「ヴェルテンベル

「國ニ付テハ千八百七十年十一月二十五日ノ條約調書及ヒ千八百七十年十一月二十一日及ヒ二十五日ノ「ヴユルテンベルヒ國トノ軍事條約第十三條ヲ見ルヘシ此條約ハ憲法第十一章ノ終尾ニ掲ケリ

「バイエルン」ノ陸軍費用ノ確定ニ付テハ千八百七十年十一月二十二日ノ「バイエルン」國トノ條約ニヲ見合スヘシ此條約ハ憲法第十一章ノ終尾ノ第一附録ニ掲ケリ

第二附録

千八百七十一年十二月九日ノ帝國平時定員及ヒ其行政費用規則此規則ハ千八百七十二年ヨリ七十四年マテ其効ヲ有スヘシ」
千八百七十三年六月十四日ノ下士官ノ改正ノ爲メ千八百七十

三年及ヒ千八百七十四年ノ臨時費規則（獨逸法律全書百三十九帖第三附録憲法第七十一條二項ヲ見合スヘシ）

第六十三條 帝國ノ陸軍ハ合一ニシテ平時戰時ニ於テ皇帝ノ指揮ニ從フヘシ（聯隊等ハ帝國一般ノ番號ヲ有スヘシ）

軍服ハ普魯西軍團ノ色式裁縫ヲ用フヘシト雖モ外面ノ記章（帽子ノ記號等）ハ連邦各國君主ニテ之ヲ定ムルコトヲ得

皇帝ハ帝國軍隊ノ員數及ヒ兵役ニ堪ユヘキ者ヲ豫備シ兵ノ編制兵器指令兵卒ノ教育及ヒ士官ノ性質ヲ合一ニスヘキ權利義務アリ之カ爲メ皇帝ハ何時タリトモ各國ノ軍制ヲ臨檢シ且不十分ナル所ヲ改正セシムル權アリ

皇帝ハ各國軍隊ノ常備員數編制及ヒ後備兵ノ編制ヲ定メ且帝國內

ニ屯所ヲ設ケ及ヒ軍隊ヲ出陣セシムル權アリ
帝國軍隊ノ行政衣服飲食兵器ヲ合一ナラシムル爲メ後來普國軍團
ニ發シタル命令ハ第八條一ノ陸軍城塞委員ヲシテ其他ノ各國軍隊
指令官ニ通知シテ之ニ倣ハシムヘシ

第六十四條 帝國ノ軍隊ハ皇帝ノ指揮ニ從フヘキ義務アリ
此義務ハ旗誓中ニ在ルモノトス

各國軍隊ノ最上司令官二國以上ノ軍隊ヲ指揮スル士官及ヒ城塞司
令官ハ皇帝ヨリ之ヲ命スヘシ皇帝ヨリ命シタル士官ハ皇帝ニ對シ
旗誓ヲ爲スヘシ各國軍團ノ將官及ヒ同等士官ヲ命スルニハ皇帝ノ
允許ヲ受クヘシ

普國又ハ各國ノ軍隊ニ於テ皇帝ヨリ士官ヲ命セントスルキハ昇進

セシムルト否トヲ問ハス各國ノ士官ヨリ之ヲ撰ノ權アリ

第六十五條 皇帝ハ帝國內ニ城塞ヲ設ケ其費用ノ通常費ヲ以テ足ラ
サル者ヲ允許セシメン爲メ第十二章ニ因テ之ヲ發議スル權アリ

第一附錄

千八百七十三年五月三十日ノ帝國城塞ヲ改造シ及ヒ其器具ヲ
豫備スル費用規則(獨逸法律全書百二十三帖)

帝國城塞建築資本

又千八百七十二二年七月八日ノ佛國戰爭賠償規則ヲ見合スヘシ
(獨逸法律全書二百八十九帖)

第二附錄

千八百七十一年十二月二十一日ノ城塞近傍土地所有權制限規

則及ヒ憲法第六十一條第二附錄(○)ヲ見合スヘシ

第六十六條 條約ヲ以テ別ニ定メサレハ各國ノ君主及ヒ元老院ハ第六十四條ノ制限ニ因リ其軍隊ノ士官ヲ命スヘシ君主及ヒ元老院ハ其國所屬軍隊ノ長官ニシテ其榮譽ヲ受クヘシ則何時タリトモ軍隊ヲ臨檢シ且通常ノ報告ノ外ニ布告スル爲メ所屬軍隊ノ昇級及ヒ任命ノ通知ヲ受クヘシ

君主及ヒ元老院ハ又警察上ノ用ニ供セン爲メ所屬軍隊ヲ使用スルノミナラス其國內ニ屯聚スル他ノ軍隊ニ囑托スルコトヲ得

第六十七條 陸軍豫算ノ殘金ハ如何ナル場合ニ於ケルモ各國ノ政府ニ完納セスシテ必ス帝國ノ出納局ニ完納スヘシ

第六十八條 帝國ノ安寧ヲ害スル恐レアルキ皇帝ハ其一部ニ戒嚴令

ヲ發スルコトヲ得帝國ノ法律ヲ以テ其要件公告式及ヒ効力ヲ定ムルマテハ千八百五十一年六月四日ノ普國法律ヲ適用スヘシ(普國法律全書四百五十一帖以下)

千八百七十年五月三十一日ノ獨逸刑法ノ施行法第四條(獨逸法律全書百九十五帖)及ヒ「バイエルン」ニ付テハ千八百七十一年四月二十二日法律第七條ヲ見合スヘシ

第十一章ノ終尾

本章ノ規則ハ千八百七十年十一月二十三日ノ條約三第五條ニ因テ「バイエルン」國ニ千八百七十年十一月二十一日及ヒ二十五日ノ軍事條約ニ因テ「ヴェルテンベルヒ」國ニ適用スヘシ

第一附錄

獨逸憲法

千八百七十年十一月二十三日ノ「バイエルン國」トノ條約三第
五帖

帝國憲法第五十七條ヨリ第六十八條マテノ陸軍軍制ニ係ル規
則中第五十七條第五十八條ヲ「バイエルン國」ニ適用スヘシト
雖モ第五十八條ニハ左ノ箇條ヲ追加シタリ
則チ本條ニ掲ケタル陸軍ノ費用及ヒ義務ハ「バイエルン國內」
ノ城塞保存費ヲ合シ「バイエルン」一國ニテ之ヲ擔當スヘシ
第五十九條及ヒ第六十條モ亦「バイエルン國」ニ適用スヘシ
然レモ第六十一條ヨリ第六十八條マテノ規則ハ「バイエルン
國」ニ適用スヘカラス左ノ箇條ヲ以テ之ニ換ヘタリ
一「バイエルン國」ハ帝國憲法ニ因リ其法律ヲ以テ制定スルカ又

ハ「バイエルン國」ノ加入スル前ニ發シタル獨逸法律及ヒ
規則ヲ「バイエルン國」ニ施行スル條約ヲ結フマテハ自國ノ軍
制及ヒ布告布達説明等ヲ用フヘシ

二「バイエルン國」ハ其軍隊及ヒ附屬建築物ノ爲メ人口ノ多寡ニ
應シ獨逸陸軍會計豫算ニ因リ他國ノ軍隊ニ費用スヘキ同一ノ
金額ヲ費用スヘシ其金額ハ獨逸會計豫算表ニ於テ「バイエル
ン」所屬軍隊ノ費用トシテ其總高ヲ掲クヘシ其支出ハ「バイエ
ルン」國ニ於テ詳細ノ豫算表ヲ以テ之ヲ定ムヘシ其際「バイエ
ルン」國ノ情況ニ因リ他國ノ軍隊ノ爲メ各章ニ掲ケタル金額ニ
應シテ之ヲ作ルヘシ

三「バイエルン國」ノ軍隊ハ獨逸軍隊中獨立シタル一部ニシテ行政

ヲ爲シ「バイエルン」國王ノ指揮ヲ受クヘシト雖モ戰時ニ於テハ(出陣ノ時ヨリ)獨逸大將ノ指揮ヲ受クヘシ軍隊ノ編制教育手數料出陣ノ豫備ニ付テハ獨逸軍隊ノ制度ニ從フヘシト雖モ武器士官ノ等級ニ付テハ「バイエルン」政府ニ於テ獨逸軍隊ニ應シテ之ヲ定ムルモ妨ケナシ獨逸大將ハ臨檢シテ「バイエルン」國軍隊ノ編制教育員數兵役ニ適スルヤ否ヲ目撃シ且改正スヘキモノ及ヒ臨檢ノ結果ニ付キ其國王ト協議スヘキ權利義務アリ「バイエルン」軍隊ノ全部又ハ一部ヲ出陣セシムルニハ獨逸大將ヨリ其國王ニ命シテ之ヲ爲サシムヘシ以上ノ協議ニ係ル事件ヲ互ニ注目スル爲メ伯林及ヒ「ミュンヘン」ニ在ル公使館附士官其陸軍省ヨリ報知ヲ受クヘシ

四戰時ニ於テハ「バイエルン」國ノ軍隊ニテ獨逸大將ノ指揮ヲ奉スヘキ義務アリ其義務ハ旗誓中ニ在ルモノトス

五獨逸國ノ防禦ノ爲メ「バイエルン」國內ニ城塞ヲ新築スルニハ其都度協議シテ「バイエルン」國ヨリ之ヲ承諾スヘシ其建築及ヒ器具ノ費用ハ人口ノ多寡ニ應シ「バイエルン」國モ亦他ノ各國ト同一ニ之ヲ擔當スヘシ又獨逸國ニ於テ其他ノ城塞臨時費ヲ要スル時モ亦同シ(千八百七十年十一月二十二日「バイエルン」國ノ獨逸憲法ニ加ハル條約調書第十四ヲ見合スヘシ)

六公安ヲ害スル恐レアルカ爲メ獨逸全國又ハ其一部ニ獨逸大將ヨリ戒嚴令ヲ發シ得ル要件公告式及ヒ効力ハ獨逸法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

七以上ノ規則ハ千八百七十二年一月一日ヨリ効力ヲ有スヘシ

第二附錄

千八百七十年十一月二十一日及ヒ二十五日ノ「ヴェルデンベルヒ國」トノ軍事條約第一條「ヴェルデンベルヒ國」ノ軍隊ハ獨逸軍隊ノ一部ニシテ獨立スル一軍團ナリ其編制(獨逸法律全書千八百七十年六百六十三帖ヨリ六百六十五條マテハ編制ヲ見合スヘシ)ハ協議シテ之ヲ定メ補缺兵常備兵ノ員數ハ出陣ノ時ハ普魯西國ノ軍制ニ從フヘシ

第二條 「ヴェルデンベルヒ國」軍隊ノ編制ハ當時ノ戰爭ヨリ歸陣スヘキ命アリシ後三箇年内ニ落成スヘシ

第三條 歸陣後ハ一定ノ期日ヲ定メ「バイエルン」國ノ軍隊ヲ

獨逸軍隊ノ第十四軍團ト爲シ自己ノ旗及ヒ記章ヲ備ヘ又其軍團ノ師團旅團聯隊大隊ハ獨立シテ獨逸軍隊ノ番號ト「ヴェルデンベルヒ」軍隊ノ番號トヲ有スヘシ

第四條 「ヴェルデンベルヒ國」ノ軍隊ヲ獨逸大將タル普魯西國王ノ指揮ニ付スヘキ期日ハ他日之ヲ定メ且舊來ノ旗誓ハ左ノ如ク爲サシムヘシ

臣ハ兵役中國王ニ對シ軍人タルノ忠節ヲ竭シ獨逸大將及ヒ軍制ニ對シ恭順ニシテ且常ニ軍人タルノ勇氣ト榮譽ヲ保タント欲ス天帝我ヲ翼ケヨ

第五條 「ヴェルデンベルヒ國」軍團ノ士官及ヒ官吏ノ任命昇級轉職等ハ「ヴェルデンベルヒ國」王自カラ之ヲ爲スヘシト雖

モ軍團司令官ニ係ルルハ獨逸大將タル普魯西國王ノ允許ヲ受クヘシ「ヴユルテンベルヒ」國王ハ其軍隊ノ長官トシテ其榮譽及ヒ權利ヲ有シ且軍團所屬ノ軍人ニ對シ軍團司令官又ハ陸軍省權限外ノ裁判權裁判決ノ認可特赦權ヲ行フヘシ

第六條 平時ニ於テ「ヴユルテンベルヒ」國軍團ヲ統轄シ且國內ニ之ヲ屯聚スルニ因テ獨逸大將ノ憲法上軍隊ヲ所分シ且之ヲ屯聚スル權ヲ害スルモノニ非ス之ニ背キ獨逸大將ヨリ命令ヲ發セントスルカ又他ノ軍隊ヲ「ヴユルテンベルヒ」國ニ屯聚セシメントスルニハ平時ニ於テハ「ヴユルテンベルヒ」國王ノ許可ヲ受クヘシト雖モ南獨逸又ハ西獨逸城寨ニ屯聚セシムルハ格別ナリトス

第七條 獨逸憲法第六十四條ニ因リ獨逸大將ノ權限ナル「ヴユルテンベルヒ」國內ノ城寨司令官ノ任名及ヒ「ヴユルテンベルヒ」國內ニ城寨ノ新築ハ場合ニ因リ獨逸大將ト同國ト王協議ノ上之ヲ爲スヘシ

又獨逸大將ニテ「ヴユルテンベルヒ」軍團ヨリ士官ヲ命セントスルルモ亦同シ其任命スヘキ士官ノ性質ヲ知り易カラシメンカ爲メ「ヴユルテンベルヒ」軍團所屬ノ參謀士官以上ニ付キ毎年普魯西國ノ書式ニ因リ人員報告書ヲ作り之ヲ獨逸大將ニ差出スヘシ

第八條 軍隊ノ教育及ヒ事務ヲ平等ナラシメンカ爲メ協議ノ上ニ年乃至二年毎ニ「ヴユルテンベルヒ」國ノ士官ニ普魯西國軍團

ノ指揮ヲ爲サシメ及ヒ普魯西國ノ士官ニ「ヴェルテンベルヒ」國ノ軍團ノ指揮ヲ爲サシムヘシ又「ヴェルテンベルヒ」國ノ士官ヲ普國ノ士官ニ轉シ又普國ノ士官ヲ「ヴェルテンベルヒ」國ノ士官ニ轉スルニハ其都度之ヲ協議スヘシ

第九條 獨逸憲法第六十三條ニ因リ獨逸大將ハ何時タリトモ臨檢シテ各國ノ軍制ヲ目撃スルコトヲ得「ヴェルテンベルヒ」國隊ハ毎年一度自カラ又ハ代理人ヲ命シ「ヴェルテンベルヒ」國王ニ通知シタル上屯所又ハ演習ニ於テ臨檢スヘシ臨檢ノ時軍制及ヒ人員ニ不足ナル所アレハ獨逸大將ヨリ其國王ニ通知シ國王ハ之ヲ改正シタル上其旨ヲ獨逸大將ニ報告スヘシ

第十條 「ヴェルテンベルヒ」軍團ノ編制ハ獨逸法律ヲ以テ別ニ定ムルマテ普國ノ制度ニ從フヘシ故ニ「ヴェルテンベルヒ」國ニハ千八百六十七年十一月九日ノ兵役義務規則及ヒ千八百六十八年三月二十六日ノ補缺兵規則ノミナラス又當時普國ニ行ハル、演習規則及ヒ其他ノ規則布達特ニ千八百四十三年七月二十日ノ榮譽裁判所規則平時戰時ノ召集職務期限賄料飲食衣服負傷者出陣等ニ係ル規則士官ノ補缺軍事學校規則ヲ適用ス可シ

普國軍隊ノ軍事社寺規則軍律軍治罪法旅宿田畑損害賠償規則ハ「ヴェルテンベルヒ」國ノ軍隊ニ適用スヘカラス舊來「ヴェルテンベルヒ」國ニ行ハル、法律編制ニ從ヒ他日獨逸法律ヲ以テ之ヲ定ムルマテ其効力ヲ有スヘシ士官ノ等級及ヒ行政官署ノ

名稱及ヒ方法ハ普國軍隊ニ異ルヘカラス軍服ハ「ヴユルテンベル」國王之ヲ定ム可シト雖モ成ルヘク獨逸軍隊ニ因ルヘシ

第十一條 戰時ニ在テハ出陣ノ時ヨリ歸陣マテ軍用ノ電信ハ獨逸大將ニテ總轄スヘシ「ヴユルテンベル」國ノ政府ハ平時ニ於テ北合衆國ノ設立法ニ應スル電信ヲ設クヘシ特ニ電信ヲ設クルニハ其軍隊ノ多寡ニ應スル軍用電信ヲ設クルヲ注意スヘシ

第十二條 獨逸憲法第六十二條ニ因リ「ヴユルテンベル」國ヨリ出タスヘキ金額ハ其國ノ政府ニ於テ獨逸會計豫算ニ從テ「ヴユルテンベル」軍隊ノ維持及ヒ購求費建築設立費等ニ充ツ可シ又中央行政、城塞、學校（專門學校、軍醫學校、試驗委員

學術技藝學校、大隊學校、步兵大砲隊、射的學校、馬術學校、躰操教授所）及參謀本部ノ總費用ヨリ「ヴユルテンベル」國ニ擔當ス可キ金額ヲ其支出ニ立ツヘシ獨逸ニ對スル義務ヲ竭シタル後仍ホ餘リアル時ハ「ヴユルテンベル」國ノ處分ニ委ヌヘシ「ヴユルテンベル」國ノ軍隊ハ獨逸編制ニ加ハリタルモノナレハ參謀本部ニ相當ノ代理人ヲ置ク可シ

第十三條 獨逸憲法第六十二條ニ因リ「ヴユルテンベル」國ヨリ出スヘキ金額ノ完納期日ハ同國ノ軍隊ヲ歸陣セシメタル翌月一日ニ始ムルヘシ然レモ獨逸陸軍會計豫算ニハ千八百七十二一年一月一日ヨリ加ハルヘシ

第二條ノ三年ノ期限中ハ「ヴユルテンベル」國ノ陸軍會計豫

算ヲ爲スニ其期限中ニ落成スヘキ新編制ニ據ルヘシ則豫算高各章ノ流用及ヒ此年度ノ同章ニ掲ケタル金高ヲ翌年度ニ移ス
トニ付キ新編制ニ從フヘシ

第十四條 非職軍人ヲ以テ「ヴユルテンベルヒ」國ノ軍隊ヲ増員シ其編制及ヒ出陣ノ準備ヲ爲スニハ獨逸大將ノ命ニ從フヘシ其命令ハ如何ナル時ニ於ケルモ必ス之ニ從フヘシ其費用ハ獨逸出納局ニテ擔當スヘシト雖モ「ヴユルテンベルヒ」國ノ出納局ハ臨時正金ノ立替ヲ爲スヘシ

第十五條 「ヴユルテンベルヒ」國ノ軍隊ト獨逸軍隊トノ文書往復ハ普國陸軍省ト「ヴユルテンベルヒ」國ノ陸軍省間ニスヘシ「ヴユルテンベルヒ」國ノ陸軍省ハ當時行ハル、カ又ハ後來

發スヘキ規則等ヲ施行スル爲メ其通知ヲ受クヘシ其他「ヴユルテンベルヒ」國ノ政府ハ常ニ連邦委員局ノ陸軍城塞委員タルヘシ

十二 帝國會計

第六十九條 帝國ノ收入支出ハ毎年豫算シテ帝國ノ會計豫算表ニ作ルヘシ會計豫算表ハ毎年度ノ始メニ左ノ規則ニ從ヒ法律ヲ以テ確定スヘシ

第七十條 一般ノ收入ニ充ツヘキ者ハ先ツ前年度ノ殘金及ヒ國境稅一般ノ消費稅電信郵便ヨリ取立ル一般ノ收入ナリトス此收入ヲ以テ不足スルルハ帝國ノ租稅ヲ取立ルマテ各國ノ人口ニ因リ出金シタル金額ヲ以テ補充スヘシ其高ハ會計豫算ノ高ニ至ルマテ宰相ヨ

リ配當スヘシ

第一附錄 帝國租稅

①千八百六十九年六月十日ノ北合衆國爲替印紙稅規則(獨逸法律全書百九十三帖)此規則ハ「バーデン」「ヘッセン」憲法第八十條ニ因テ「バーデン」「南ヘッセン」ニ行ハレ千八百七十年十一月二十五日ノ條約第六條六ニ因テ「ヴュルテンベルヒ」國ニ行ハレ千八百七十一年四月二十二日ノ法律第四條ニ因テ「バイエルン」國ニ行ハレ「バーデン」「ヘッセン」憲法第八十條及ヒ千八百七十年十二月三十日ノ布達ニ因テ「ホーエンツホルレル」國ニ行ハレ千八百七十一年七月十四日ノ法律ニ因テ「エルザス」「ロートリンゲン」ニ行ハルヘシ此規則ニ付テハ千八百六

十九年十二月十三日及ヒ千八百七十一年六月二十三日ニ施行法ヲ發シ「エルザス」「ロートリンゲン」ニ付テハ千八百七十一年六月二十七日ニ布達ヲ發シタリ(獨逸法律全書千八百六十九年六百九十一帖千八百七十一年ノ二百六十七帖)爲替印紙稅ヲ仕拂フ爲メノ爲替印紙及ヒ官印ヲ捺シタル白紙ノ不足及ヒ破損シタル印紙及ヒ白紙ヲ交換スル手續ニ付テハ千八百六十九年十二月十三日千八百七十年二月二十一日千八百七十一年八月十一日千八百七十三年七月十一日「エルザス」「ロートリンゲン」ニ付テハ千八百七十一年八月三日千八百七十三年七月三十日ニ布達ヲ發シタリ(獨逸法律全書千八百六十九年ノ六百九十五帖千八百七十年ノ三十六帖千八百七十一年ノ三百二

獨逸憲法

十三帖千八百七十三年ノ二百九十五帖)

①千八百七十一年六月八日ノ贈遺金附帶ノ無記名證書規則第四條(獨逸法律全書二百十帖)ハ帝國出納局ニ官印稅ヲ取立ルナリ

又憲法第四條第十三ノ第二附錄ノ⑦ヲ見合スヘシ

第二附錄

千八百七十三年五月二十五日ノ帝國行政用ノ物件ノ權利義務規則(獨逸法律全書百十三帖)此規則ハ千八百七十三年十二月八日ノ法律ニ因テ「エルザス」「ロートリンゲン」ニ行ハルヘシ

第三附錄

千八百七十一年六月十四日ノ宰相局増建築規則千八百七十三年六月十四日ノ外務局増建築規則千八百七十三年六月十二日ノ伯林ニ在ル陸軍省參謀本部及ヒ軍事學校増建築規則(獨逸法律全書千八百七十一年二百五十四帖千八百七十三年百三十八帖及ヒ百二十七帖)

第七十一條 一般ノ支出ハ通常一年度ノ允許ヲ爲スヘシト雖モ場合ニ因テハ一年以上允許スルコアリ

第六十條ノ期限間ハ陸軍支出豫算ハ止タ連邦委員局及ヒ下院ニ通知シテ意見ヲ述ヘシムヘシ

千八百七十一年十二月九日ノ千八百七十二年ヨリ七十四年度ノ帝國平時定員及ヒ其行政費規則ヲ見合スヘシ

第七十二條 帝國收入ノ支出ハ毎年宰相ヨリ連邦委員局及ヒ下院ニ

精算書ヲ呈出シテ其義務ヲ免カルヘシ

帝國會計檢査院ノ帝國豫算監督ニ付テハ憲法第十八條ノ第一附

録⑤ノ法律ヲ見合スヘシ

第七十三條 臨時費ヲ要スルキハ帝國ノ法律ヲ以テ國債ヲ起シ又保

證ヲ爲シテ帝國ニ義務ヲ擔當スルコトヲ得

第一附録

國債ニ係ル法律①千八百六十七年十一月九日ノ北合衆國ノ軍

艦ヲ加増シ及ヒ砲臺ヲ改造スル臨時費規則及ヒ千八百六十九

年五月二十日千八百七十年四月六日ノ改正(獨逸法律全書千

八百六十七年ノ百五十七帖千八百六十九年百三十七帖千八百

七十年ノ六十五帖)

②佛國トノ戰爭ニ因テ發シタル規則千八百七十年七月二十一日

ノ海陸軍臨時費規則千八百七十年十一月二十九日ノ臨時費規

則千八百七十一年四月二十六日ノ臨時費規則千八百七十一年

十月二十八日ノ千八百七十年七月二十一日ノ規則ニ因リ起シ

タル百分ノ五利子附ノ國債償却規則(獨逸法律全書千八百七

十年四百九十一帖六百十九帖千八百七十一年ノ九十一帖三百

四十三帖)

又千八百七十年十一月十五日ノ北合衆國「バーデン」「ヘッセン」

間ノ條約調書千八百七十年十一月二十三日ノ「バイエルン」國

ノ獨逸憲法ニ加ハル條約調書十三ヲ見合スヘシ

第二附録

獨逸憲法

千八百六十八年六月十一日ノ「ドナーウ」河口ノ「ズリナ」河ヲ航行セシムル爲メ歐羅巴「ドナーウ」河航船委員ヨリ募リタル國債ヲ北合衆國ニテ保證スル規則（獨逸法律全書千八百六十九年ノ三十三帖）

第三附錄

千八百七十年五月三十一日ノ「サーンゴットハール」鐵道建築ノ爲メ北合衆國ヨリ補助金ヲ出ス規則此規則ハ千八百七十一年十一月二日ノ「サーンゴットハール」鐵道規則ニ因テ廢シタリ（獨逸法律全書千八百七十年ノ三百十二帖千八百七十一年ノ三百七十五帖）

又千八百七十一年十月二十八日ノ「サーンゴットハール」鐵道

ノ補助金ニ係ル獨逸伊太利瑞西間ノ條約ヲ見合スヘシ（獨逸法律全書三百七十六帖）

第十二章ノ終尾

「バイエルン」國軍隊ノ支出ニ付キ第六十九條及ヒ第七十一條ト第十一章ノ終尾ニ掲ケタル千八百七十年十一月二十三日ノ條約ニ因テ適用スヘク且第七十二條ハ止タ連邦委員局及ヒ下院ニ「バイエルン」國軍隊ノ金額ヲ「バイエルン」國ニ交付シタルコトヲ證明スルノミ
十三 爭論ノ判決及ヒ刑罰

第七十四條 帝國ノ存立邦土安寧憲法ニ對スル所業及ヒ言語文書印刷物畫圖偶像ヲ以テ職務ヲ行フニ當リ又ハ職務ニ係リ連邦委員局下院其全權者議員帝國ノ官署官吏ニ對スル讒謗ハ各國ニ於テ其邦

士憲法議員黨族會議其議員、官署官吏ニ對スル同一ノ所業ニ適用スヘキ法律又ハ後來發スヘキ法律ヲ以テ裁判スヘシ

千八百七十年五月三十一日ノ刑法施行法第四條及ヒ獨逸刑法第八十一條第九十三條第一百五條第百六條第百八十五條ヨリ第二條マテ第三百三十九條ヲ見合スヘシ

第七十五條 前條ノ帝國ニ對スル所業各國ニ對シテ謀叛大逆ナルハハリユーベツキニ在ルニ共和郷ノ普通控訴裁判所ニ於テ始審終審ノ裁判ヲ爲スヘシ

控訴裁判所權限及ヒ裁判手續ハ帝國ノ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ其法律ヲ發スルマテハ各國ノ裁判所ノ權限及ヒ其裁判手續ニ從フヘシ

第七十六條 各國間ノ爭訟民事ニ非ス管轄裁判所ニ於テ裁判スル能ハサルトキハ一方ノ求メニ因テ連邦委員局ニ於テ裁判スヘシ
憲法ノ爭訟ヲ裁判スヘキ官署ナキ各國ニ於ケル爭訟ハ一方ノ求メニ因リ連邦委員局ニ於テ勸解スヘシ其効ナキトキハ帝國ノ法律ヲ以テ之ヲ裁判スヘシ

第七十七條 各國ニ於テ裁判ヲ拒ミ且法律ニテ充分ナル保護ヲ受クルコト能ハサルトキ連邦委員局ハ其國ノ憲法法律ニ因リ證明シタル抗拒延滞ノ故障ヲ受理シ其國ノ政府ヲシテ裁判ヲ爲サシムヘシ

十四 總則

第七十八條 憲法ノ改正ハ法律ヲ以テ爲スヘシ連邦委員局ニ於テ否トスル投票十四アルトキハ其改正ヲ肯セサルモノトス各國ト帝國

トノ權利ヲ定ムル憲法ノ箇條ハ其國ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ之ヲ
改正スルコトヲ得ス

第一附錄

千八百七十一年十一月十五日ノ北合衆國「バーデン」ヘツセン
間ノ條約調書ハ千八百七十年十一月二十五日ノ「ヴュルデン
ベルヒ」國ノ獨逸憲法ニ加ハル條約調書ヲ見合スヘシ

第二附錄

各國ト帝國トノ權利ヲ定ムル箇條ハ左ノ如シ

①「バイエルン」ニ付テハ第四條一八〇第三十五條第三十八條第
四十六條第五十二條第十一章第十二章ノ終尾

②「ヴュルデンベルヒ」國ニ付テハ第四條ノ十第八條第三十五條

第三十八條第五十二條第十一章ノ終尾

③「バーデン」國ニ付テハ第三十五條第三十八條

④「サクソン」國ニ付テハ第八條

⑤「ハンブルヒブレイメン」ニ付テハ第三十四條ナリ

第三普魯西國憲法一

千八百五十年一月三十一日布告

天帝ノ輔翼ヲ以テ普魯西國王タル「フリドリッヒ、ヴィルレム」カ曾テ千八百四十八年十二月五日ニ其特權ヲ以テ國憲ヲ制定シテ之ヲ頒布シ其後兩院ノ允許ヲ得之ニ記載セシ如ク兩院ヨリ改正ヲ加フル後協議ヲ遂ケテ確定シタルモノナリ

千八百四十八年以前マテハ普魯西國ニ憲法ナシ而ルニ兩度迄議員ヲ召集シテ憲法ヲ制定セントスレモ協議整ハサルニ因リ千八百四十八年ニ國王カ其特權ヲ以テ憲法ヲ作り後日兩院ヲ開キ其改正ヲ爲サシメタル上之ヲ布告セン「ノ約束ヲ以テ之ヲ頒布シタリ則チ其約束ノ如ク千八百四十九年ニ議員ヲ召集シ之ニ改正ヲ加ヘタル上兩院ノ允許ヲ得テ眞正ナル國憲ヲ制定シタルナリ」

天帝ノ輔翼トハ國王ノ生ナカラニシテ自然ニ有スル權利ヲ云フ
故ニ共和政体ニ於テハ人民ヨリ選ヒタル者ナレハ其稱ヲ唱フル
コトヲ得ス

故ニ朕「フリドリ―ヒ、ウイルレム」カ其憲法ヲ國家ノ柱礎トシテ頒布
スルコト左ノ如シ

第一編 國境

國ハ何ヨリ成立ル者ナルカ則土地ト人民トニ因テ成立スル者ナ
レハ先ツ國境ヲ定ムル緊要トセリ

第一條 普魯西國ノ國土ハ當時ノ經界ヲ以テ普魯西ノ國境ヲ作ルヘシ
普魯西ノ國境ヲ作ル趣意ハ普魯西ノ土地ニシテ普魯西國ノ國境
ニ屬セサルモノナシ故ニ普魯西憲法ハ其國土ニ行ハレサル所ナ

シ

第二條 國境ノ經界ヲ變更スルコトハ止テ法律ニ因テノミ之ヲ爲スコ
ト得

變更スルトハ國境ノ經界ヲ増減スルコトヲ云フ例ヘハ普魯西ニ
テ千八百六十六年ニ墾地利トノ戰爭ニ因テ「ハ―フル」ヘツセン
「ナザウ」等ヲ取タルカ如シ又ハ其國土ヲ他國ノ土地ト交易シ或
ハ自ラ其國土ヲ他國ニ賣却スルコトアリ都テ是等ノ變更ハ國王ノ
特權ノミニテハ之ヲ爲スコトヲ得ス必ス兩議院ノ許可ヲ要スヘシ
何故ニ兩院ノ許可ヲ要スルヤハ例ヘハ他國ヲ取タルトハ其國ニ
自ラ舊來ノ負債等ノ附着スルモノアレハ爲メニ本國人民ニ義務
ヲ増サシムヘキノ恐レアレハ前以テ人民ノ代議士タルノ意見ヲ

問フヘキノ理アルモノトス

第二編 普魯西人ノ生來ノ權利

第三條 憲法及ヒ法律ニ於テ普魯西人タルノ性質及ヒ國民權ヲ得失スル要件ヲ定ムヘシ

其趣意ハ國王ハ其一己ノ意見ヲ以テ隨意ニ國民權ヲ得失スルヲ得ス必ス法律ニ因テ定ムヘキモノトセリ

國民權ノ得失ニ付テハ數多ノ法律アレモ茲ニ其要件ヲ略スルヲ左ノ如シ

國民權ヲ得ルニ付テハ英國トハ大ニ異レリ英國ハ土地ニ國民權ヲ定メリ普國ニ於テハ人ニ國民權ヲ定メリ故ニ英國内ニ於テ外國人ノ來テ其子ヲ生ムルハ之ヲ英人ト看做セシキ普國ニテハ其

父タル者ノ普魯西人ナレハ生國ノ如何ヲ問ハス普魯西國人ト爲スカ如シ是レ英普ノ大ニ異ル所ナリ

國民權ヲ得ル事

第一 誕生

例ヘハ父カ普魯西人ナレハ何レノ國ニ生産スルモ相當ノ子ナレハ普魯西ノ國民權ヲ得ヘシ私生ノ子ハ母カ普魯西人ニ非サレハ國民權ヲ得ス

第二 私生ノ子ヲ認ルコト

例ヘハ普魯西人ノ父ト外國ノ女トノ間ニ生ル、子ハ母ノ國民權ヲ得レモ其後婚姻シタルカ又ハ國王ノ特許ヲ以テ實子ト認メタルトキハ父ノ國民權ヲ得ヘシ

第三 婚姻

例へハ外國ノ女カ普魯西人ト婚姻シタトキハ其女ハ普魯西國
民權ヲ得ヘシ

第四 外國人カ普魯西國政府ノ官吏ト爲リタルトキハ普魯西國
民權ヲ得ヘシ

例へハ日本人ニシテ獨逸ノ郵便局ノ官吏ト爲ルトキハ直チニ
普魯西國民タルノ權ヲ得ヘシ

第五 歸化

歸化トハ外國人カ普魯西ニ住居シテ歸化ノ願ヲ差出シタルト
キハ上等行政官縣令ヲ云フヨリシテ歸化證書ヲ交付スルヲ以テ普
魯西ノ國民權ヲ有スルモノトス

第四マテハ當人カ國民權ヲ得ルノ權ヲ自然ニ有スレモ第五ニ至
テハ自然ノ權利ナシ止タ其請求アルニ因テ得ルノミ

國民權ヲ失フ事

第一 正當ノ子ナリト認ルトキ

例へハ普魯西ノ女ト英人トノ間ニ私生ノ子ヲ生メハ其子ハ普
魯西ノ國民權ヲ得レモ其後英人ト婚姻ノ式ヲ爲ストキハ則普
ノ國民權ヲ失フヘシ

第二 婚姻

例へハ普魯西ノ女ニシテ外國人ト婚姻シタルトキハ普ノ國民權
ヲ失フヘシ

第三 婚姻ヲ無効トスル判決

例へハ外國ノ女ニシテ普國人ト婚姻シテ普ノ國民權ヲ得レ
其婚姻ヲ無効トスル時則年齡等ノ法律ニ適セサルトキハ裁判
所ニ於テ其婚姻ヲ無効トス然ルトキハ其女ハ普國ノ國民權ヲ
失フヘシ

第四 普ノ國民權ヲ取上クル事

例へハ普國人カ亞米利加ニ轉移居住センカ爲メ上等行政官ニ
願ヲ差出シタルトキハ其國民權取上ノ證書ヲ交付スヘシ然ル
後仍ホ六ヶ月間普國ニ止マルトキハ其證書ノ効ナシ何トナレ
ハ六ヶ月ヲ經ルモ仍ホ普國ニ止マル者ハ眞實ニ轉住スルノ意
ニ非スシテ一時國民ノ義務ヲ免カレントスル意アレハナリ
國民權取上證書及ヒ歸化證書ニ特ニ記載ナキトキハ妻及ヒ未

丁年ノ子ニモ其證書ノ効力ヲ及ホスヘシ

第五 期滿失權

例へハ普國人カ他國ニ出テ十年間滞在シタルトキハ國民權ヲ
失フヘシ然レモ旅券ヲ有スルカ又ハ本國政府ノ許可ヲ得テ外
國ノ官吏ト爲ルカ又ハ外國ニ在ル本國政府ノ領事館ノ帳簿ニ
記入シタルトキハ此限ニ在ラス

第六 罰ニ因テ國民權ヲ失フ事

例へハ普國人カ外國ニ滞在中普國ニ戰爭起リ之カ爲メ國王ヨ
リ召還ノ命アルモ其命ニ從ハサルトキハ中央政府ヨリ國民權
ヲ取上クヘシ或ハ普國人カ本國政府ノ許可ヲ得スシテ外國政
府ノ官吏ト爲リ本國政府ヨリ召還ノ命アルモ仍ホ歸國セサル

者亦同シ千八百七十年六月一日ノ
獨乙國民權法ヲ見ルヘシ

第四條 凡テ普魯西人ハ法律ニ對シテ差等ナシ身分ニ付キ特權アル

トヲ許サス官吏ト爲ルノ權ハ何人ニテモ法律ニ定メタル要件ヲ具
ヘ且其學力アル者ハ之ヲ得ヘシ

法律ニ對シテ差等ナシトハ法律ニ於テ普魯西人ノ差等ヲ定メサ
ルトキハ法律ニ對シ都テ同等ナルノ意味ナリ身分ニ付テノ特權
トハ貴族ノ特權ヲ云フナリ

官吏ト爲ル云々ハ例ヘハ裁判官ト爲ルニハ法律ニ定メタル試験
ヲ經レハ則チ裁判官タルトヲ得ルモノニシテ國王ト雖モ他ノ要
件ヲ定ムルトヲ得ス

何人ニテモ法律ニ定ムル要件ヲ具フレハ官吏ト爲ルトヲ得レモ

之ヲ任スルトハ獨リ國王ノ權内ニ在レハ人民ヨリ自ラ其官吏タ
ルトヲ求ムルノ權ナシ

第五條 人民ノ自由ハ犯ス可カラス其自由ヲ抑制スル要件及ヒ方法
就中勾留ハ法律ニ因テ之ヲ定ムヘシ

英國ノ「ハビヤスコルパスアクト」ト等シク法官ト雖モ隨意ニ人
ヲ勾留スルトヲ得ス勾留スルニハ心ス法律ニ定メタル方式ニ從
フヘシ因テ裁判官ノ勾留狀ナクシテ擅マ、ニ人ヲ勾留スルトヲ
得ス又警察官ハ一時現行犯人ヲ勾留スルトヲ得レモ二十四時間
ニハ必ス裁判官ノ勾留狀ヲ得サレハ之ヲ放免スヘシ

治罪法第百十二條 被告人ニ對シ急速ヲ要スル犯罪ノ事跡アリ
テ且ツ逃亡スルノ恐レアルカ又ハ罪証ヲ湮滅スルカ又ハ証人若

クハ共犯人ヲシテ相違ナル事實ヲ述ヘシメ又ハ証人ヲ詐術ヲ以テ其証ヲ述フルノ義務ヲ免カレシムル等ノ事跡アルキハ之ヲ勾留スルコトヲ得此事跡ハ令狀ニ記載スヘシ

逃亡ノ疑ハ左ノ場合ニ限り理由アルコトヲ要セス

- 一 審問ノ事件重罪タルキ
- 二 被告人無籍又ハ無賴又ハ其何者タルヲ知ルコト能ハサルキ
- 三 外國人ニシテ裁判所ノ呼出ニ應セス且其判決ニ従ハサルノ確乎タル疑アルキ

第百十三條 若シ犯罪勾留又ハ罰金ニ處スヘキ所爲ナルキハ逃亡ノ恐レアリ且ツ前條第二又ハ第三ニ掲ケタル被告人タルキ又ハ監視ニ付セラレタル者ナルキ又ハ地方警察官署ノ監督ニ送付

シ得ヘキ違警罪ノ犯則者ナルキニ非サレハ勾留スルコトヲ得ス

第百十四條 勾留ハ裁判官ノ勾留狀ニ因テ爲スヘシ

勾留狀ニハ被告人ヲ詳細ニ記シ且其犯罪及ヒ勾留スヘキ理由ヲモ記スヘシ

勾留狀ハ勾留ノキ之ヲ被告人ニ示スヘシ若シ之ヲ示スコト能ハサルキハ遲クモ監倉ニ引致シタル翌日ニ第三十五條ニ從テ之ヲ被告人ニ言渡シ且之ニ對シ故障ヲ述ヘ得ヘキコトヲ申聞カスヘシ

第百十五條 勾留セラレタル者ハ遲クトモ監倉ニ引致シタル翌日裁判官ヨリ犯罪事件ニ付キ糾問スヘシ

第百十六條 勾留セラレタル者ハ成ルヘク丈ケ別室ニ入レ已決犯ト同室セシムヘカラス

勾留セラレタル者ノ自由ハ勾留ノ目的ヲ達スル爲メ又ハ監倉ノ規則ヲ遵奉セシムル爲メニ非サレハ之ヲ制限ス可カラズ
勾留セラレタル者ノ身分及ヒ資力ニ相當スル衣食及ヒ事業ハ勾留ノ目的ニ違ハス且監倉ノ規則及ヒ靜謐ヲ害セサレハ本人ノ費用ヲ以テ之ヲ使用スルコトヲ得

監倉ニ引致セラレタル者ヲ束縛スルニハ本人ノ危害特ニ甚シキ
并就中他人ヲ防護スル爲メ又ハ自殺若クハ越獄セントシタルカ
又ハ其同意ヲ爲シタルトキニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス公廷ニ
テハ束縛ス可カラズ

前項ノ所分ヲ爲スカ爲メ必要ナル命令ハ裁判官ヨリ之ヲ爲スヘ
シ急速ヲ要スル場合ニ於テ他ノ官吏ヨリ其命令ヲ爲シタル并ハ

裁判官ノ許可ヲ得ヘシ

第一百七七條 止タ逃亡ノ恐レアルカ爲メ勾留シタル者ハ保釋ヲ
以テ其勾留ヲ放免スルコトヲ得

第一百八條 保釋ハ現金又ハ有價證書ヲ裁判所ニ寄托シ又ハ抵
當物ヲ入レ又ハ相當ナル人ノ保證ニ因テ之ヲ爲スヘシ

保釋ノ金高及ヒ其種類ハ裁判官ノ意見ニ因テ之ヲ定ムヘシ

第一百九條 保釋ヲ以テ勾留ヲ免センコトヲ願出タル者ハ獨逸國
内ニ其住所ヲ有セサレハ裁判管轄地内ニ住居スル人ニ送達書ヲ
受領スヘキコトヲ委任スヘシ

第二百十條 保釋ヲ以テ勾留ヲ免セラレタル者ト雖モ逃亡ノ用
意ヲ爲スカ又ハ故ナク呼出ニ應セサルカ又ハ新タニ勾留スヘキ

情況アルキハ直ニ勾留スヘシ

第百廿一條 未タ沒收セサル保釋金額ハ被告人ヲ勾留スルカ又ハ勾留狀ヲ取消スカ又ハ自由ヲ奪フ刑ヲ執行シタルキハ之ヲ還付スヘシ

被告人ノ爲メニ保証ヲ爲シタル者ハ裁判所ヨリ定メタル期日内ニ被告人ヲ引致スルカ又ハ逃亡ノ恐レアル景況ヲ申立テ勾留セシムルキハ其責ヲ免カルヘシ

第百廿二條 未タ其責ヲ免カレサル保釋金額ハ被告人審問又ハ自由ヲ奪フ刑ノ執行ヲ遁カル、キハ之ヲ國庫ニ沒收スヘシ
沒收ヲ裁定スル前ニ被告人及ヒ被告人ノ爲メ保釋ヲ爲シタル者ニ其辨明ヲ爲サシムヘシ其裁定ニ對シテハ此等ノ者直ニ故障ヲ

述フルコトヲ得故障ヲ裁定スル前ニ關係者及ヒ檢事ヲシテ其申立ノ理由ヲ述ヘシメ並ニ調書ニ辨明ヲ爲サシムヘシ

沒收ノ裁定ハ被告人ノ爲メ保釋シタル者ニ對シ民事裁判官ヨリ發シタル仮執行ヲ爲スコトヲ得ル判決ト同一ノ効ヲ有シ且故障期限ノ經過シタル後ハ終審判決ノ効ヲ有スヘシ

第百廿三條 勾留狀ハ勾留ノ理由消滅スルカ又ハ被告人放免トナルカ又ハ公訴消滅スルキハ之ヲ取消スヘシ

故障ノ申立アルト雖モ被告人ノ放免ヲ遲延スヘカラス
第百廿四條 勾留保釋ニ關スル裁定ハ管轄裁判所ニ於テ之ヲ爲スヘシ

豫審ニ於テハ豫審判事勾留狀ヲ發シ又檢事ノ承諾ヲ以テ之ヲ取

消シ或ハ保釋ヲ以テ被告人ヲ放ツコトヲ得檢事之ヲ承諾セスシテ豫審判事ニ於テ其處分ヲ爲サントスルルキハ遅クトモ二十四時間ニ裁判所ノ裁定ヲ乞フヘシ

公判ヲ開キタル後ハ迅速ヲ要スル場合ニ於テ裁判長モ亦前項ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第百廿五條 公訴ヲ爲スノ以前ト雖モ勾留狀ヲ發スヘキ理由アルルキハ區裁判官ハ檢事ノ申立ニ因リ又ハ迅速ヲ要スル場合ニ於テハ職權ヲ以テ之ヲ發スルコトヲ得

勾留スル者ヲ管轄スル裁判所ノ區裁判官ハ勾留狀ヲ發シ且勾留保釋ニ關スル裁定ヲ爲スコトヲ得

第百十四條ヨリ第百廿三條ニ至ル規則ハ本條ニモ亦之ヲ適用ス

ヘシ

第百廿六條 公訴ヲ爲ス以前ニ發シタル勾留狀ハ檢事ノ申立ニ因リ又ハ勾留シタル後一週間内ニ公訴ヲ爲サス且管轄裁判官ヨリ更ニ勾留時間ヲ定メ區裁判官ニ通知シタル時ハ之ヲ取消スヘシ

若シ一週間内ニ公訴ヲ爲ス用意整ハサルルキハ區裁判官ハ檢事ノ申立ニ因リ一週間ノ猶豫ヲ與ヘ且其事件ノ重罪若クハ輕罪ナルルキハ更ニ檢事ノ申立ニ因リ仍ホ二週間ノ猶豫ヲ與フルコトヲ得

第百廿七條 現行犯ニ於テハ現場又ハ犯人ヲ追逐スルルキハ何人ニテモ裁判官ノ勾留狀ヲ要セスシテ假リニ犯人ヲ捕縛スルコトヲ得但逃亡ノ恐アルルキ又ハ直ニ何者タルヲ知ルコト能ハサルルキニ限

ルヘシ

檢事及ヒ警察官ハ勾留狀ヲ發スヘキ事由アリテ至急ヲ要スル
ハ亦假リニ捕縛スルコトヲ得

告訴ヲ待ツコトヲ要スル犯罪ニ於テハ告訴ヲ待タスシテ假リニ捕
縛スヘシ

第百廿八條 捕縛シタル者ハ放免スルニ非サレハ速カニ捕縛地
ヲ管轄スル裁判所ノ區裁判官ニ引致スヘシ區裁判官ハ遅クトモ
引致シタル翌日ニ之ヲ審問スヘシ
區裁判官ニ於テ捕縛スヘキ理由ナキカ又ハ其理由消滅シタリト
認メタルモハ之ヲ放免スヘシ然ラサレハ勾留狀ヲ發スヘシ但第
百廿六條ニ從フヘシ

第百廿九條 捕縛セラレタル者ニ對シ已ニ公訴ヲ爲シタルモハ
本人ヲ直ニ又ハ引致シタル區裁判官ノ命令ニ因リ管轄裁判所若
クハ豫審判事ニ引致シ遅クトモ引致シタル翌日ニ放免又ハ勾留
ノ裁定ヲ爲スヘシ

第百三十條 犯罪ノ疑アルニ因リ告訴ヲ待ツコトヲ要スル犯人ニ對
シ告訴アル以前ニ勾留狀ヲ發シタルモ直チニ告訴ヲナス權ア
ル者一人(少クモ)ニ其旨ヲ通知スヘシ但第百廿六條ニ從フヘシ
百三十一條 裁判官及ヒ檢事ハ勾引狀ニ因テ人相書ヲ發スルコ
トヲ得但逃亡シタルカ又ハ隱匿シタルモニ限ルヘシ
勾留狀ヲ發セサル場合ニ於テハ捕縛セラレタル者監倉ヲ脱シ又
ハ監守ヲ免カレタルモニ非サレハ人相書ヲ發スルコトヲ得ス此場

合ニ於テハ警察官モ亦人相書ヲ發スルコトヲ得
人相書ニハ成ルヘク勾引スヘキ者ノ体貌及ヒ其犯罪及ヒ引致ス
ヘキ監倉ヲ詳記スヘシ

第一百三十二條 勾引狀又ハ人相書ニ因テ勾引サレタル者ハ遅ク
トモ勾引シタル翌日ニ管轄裁判官ニ引送スルコト能ハサレハ本人
ノ願ニ因リ直ニ最近ノ區裁判官ニ引致スヘシ
區裁判官ハ遅クトモ引致シタル翌日ニ審問スヘシ若シ本人人違
ナルコト又ハ管轄官署ヨリ更ニ勾引ニ取消シタルコトヲ証明シタル
ルハ之ヲ放免スヘシ

第六條 人民ノ家宅ハ犯ス可カラズ家宅ニ侵入シ及ヒ搜索シ並ニ書
翰書類ヲ取押フルコトハ止テ法律ニ定メタル場合ニ於テ法式ニ從

テ之ヲ爲スコトヲ得ルノミ
人民ノ家宅ハ即チ人民ノ城寨ナレハ本人ノ意ニ反シテハ其家宅
ニ入ルコトヲ得ス若シ入りタルルハ家内ノ靜謐ヲ破リタル者ト區
政府タリト雖モ一箇私人ノ如ク本人ノ意ニ反シ檀ニ入ルコトヲ得
ス止テ法律ニ定メタル場合ノミ入ルコトヲ得ルナリ
家宅搜索及ヒ書翰ノ秘密破開ニ就テハ種々ノ法律アリ殊ニ書翰
ハ一箇私人ハ勿論官吏タリト雖モ檀ニ之ヲ破拆スルコトヲ得ス若
シ破拆シタルルハ書翰ノ秘密ヲ開破シタルノ罰ヲ受クヘシ然レ
モ犯罪ノ疑アルルハ裁判官又ハ檢事ヨリシテ郵便局ニ指令シテ
其書翰ヲ裁判所ニ差出サシメ止テ裁判所ニ於テ之ヲ開クコトヲ得
ルノミ檢事ハ之ヲ開クコトヲ得ス

家宅搜索ハ法律ニ從ヒ犯人又ハ他人ニ爲スコアリ犯人ノ家宅搜索ヲ爲スニハ犯人ヲ捕縛スル爲メ又ハ所犯ノ證據ヲ得ル爲メ他人ノ家宅搜索ヲ爲スニハ犯人カ其家内ニ藏匿スルカ又ハ所犯ニ關係アル證據物件ノ其家宅内ニ藏匿スル疑アルトニ限り之ヲ爲スコヲ得家宅搜索ハ監視ニ付シタル者ノ外ハ夜間ニ之ヲ爲スコヲ得ス家宅搜索ハ止タ裁判官ヨリ命シテ之ヲ爲サシムルヲ得ルノミ然レモ至急ノ場合ニ於テハ檢事又ハ司法警察官之ヲ爲スコヲ得裁判官又ハ檢事ヨリ爲スルハ別ニ他人ヲ立會ハセシメスト雖モ警察官ヨリ爲スルハ證據人二人ヲ立會スヘシ何レノ場合ニ於テモ現ニ家宅ヲ所有スル者ノ求メニ因テハ家宅搜索ノ席ニ之ヲ立會スヘシ

警察官ヨリ家宅搜索ヲナスニハ以上ノ外ニ其權限ヲ越ユルコトヲ防クノ法アリ

警察官ヨリ搜索ヲ爲スニハ現ニ家宅ヲ所有スル者又ハ其代理人又ハ其隣家ノ者ヲ立會スヘシ

現ニ家宅ヲ所有スル者ノ求メニ因テハ其家宅ヲ搜索スル理由書及ヒ搜索シタル物件ノ明細書ヲ交付スヘシ文書ヲ搜索スルニ裁判官ヨリ之ヲ爲スルハ封印ヲ要セサレモ檢事警察官ヨリ爲スルハ其文書ヲ封シ檢事警察官ノ印ト家宅現有者ノ印トヲ捺用スヘシ若シ搜索ノ際疑フヘキ物件ノナキ時ハ其證書ヲ家宅現有者ニ交付スヘシ

若シ取押ヘタル文書ヲ破開シテ檢閲スルモ所犯ノ證據ト爲ルヘ

キコトヲ記載セサレハ裁判官ヨリシテ直チニ之ヲ所有者ニ還付シ
他人ニハ決シテ之ヲ示ス可カラス其理由ハ例ヘハ官員ノ文書ヲ
取押ヘタルキ其所犯ニ關係ナキ文面ヲ他人ニ示スキハ政府ノ政
略ヲ他ニ漏スヘキノ恐アレハナリ

治罪法 第九十四條 審問ノ爲メノ證憑ト爲ルヘキ物又ハ沒收
スヘキ物ハ之ヲ取上ケ又ハ他ノ方法ヲ以テ之ヲ監守スヘシ若シ
其物件他人ノ手ニ在リ之ヲ出スコトヲ肯ンセサルキハ之ヲ差押フ
ルノ手續ヲ爲スヘシ

第九十五條 前條ノ物件ヲ現有スル者ハ官署ノ求メニ因リ之ヲ
差出スヘシ
之ヲ差出スコトヲ拒ミタルキハ第六十九條ニ從テ脅迫シテ差出サ

シムルコトヲ得 第六十九條 証人法律ニ掲ケタル理由ナクシテ陳述
シタル費用ヲ納メ且三百マルク以下ノ罰金ニ處セラレハ之カ爲メ生
ヲ出スコト能ハサルキハ之ヲ六週間以内ノ拘留ニ換ユヘシ
又強ヒテ陳述セシムル爲メ拘留スルコトヲ得但其期限ハ其裁判落
着ノ時間ヲ越ユ可カラス又六ヶ月及ヒ違警罪ニ在テハ六週間ヲ
越ユ可
カラス

此所分ハ豫審判事及ヒ豫審ニ係ル區裁判官委任若クハ囑托セ
ラレタル裁判官モ亦之ヲ爲スコトヲ得
其所分ヲ盡シタルキハ同事件ニ係ル同裁判若クハ他ノ裁判ニ於
テ再ヒ之ヲ爲スコトヲ得ス
陸海軍現役ノ軍人ニ對シ本條ノ罰ヲ科シ及ヒ執行スルニハ軍事
裁判所ニ囑托スヘシ
證人ト爲テ陳述スルコトヲ拒ム權アル者ニ對シテハ本項ノ處分ヲ
爲スコトヲ得ス

第九十六條 官署又ハ官吏ノ手ニ在ル書類ハ其上等官署ニ於テ
其書類ヲ他人ニ知ラシムルキ帝國若クハ連邦國ノ公益ヲ害スヘ

シト認メタルモノハ之ヲ差出サシムルコトヲ得ス

第九十七條 被告人ト第五十一條第五十二條ノ關係ニ因リ證人

ト爲テ陳述スルコトヲ拒ムヘキ權アル者トノ間ニ往復シタル文書
ハ其關係者ノ手ニ在リ且關係者ニ共犯又ハ贓物ヲ藏匿スルノ疑
アルニ非サレハ之ヲ差押フルコトヲ得ス第五十一條証人ト爲テ陳述ヲ拒ム權アル者ハ左ノ

如シ

- 一 被告人ト婚姻ノ契約ヲ爲シタル者
 - 二 被告人ノ配偶者但離縁シタル後ト雖モ亦同シ
 - 三 被告人ト直系ノ血屬及ヒ姻屬若クハ養子ノ關係アルカ又ハ
三度ニ至ル傍系若クハ二度ニ至ル姻屬ノ關係アル者但姻屬
ノ關係ヲ生セシメタル婚姻已ニ成立タサルモ亦同
以上ニ掲ケタル者ニハ審問前ニ陳述ヲ拒ム權アルコトヲ知ラ
スヘシ此等ノ者ハ審問中ト雖モ亦其權ノ放棄ヲ取消スコトヲ
得
- 第五十二條 又左ニ掲ケル者モ陳述ヲ拒ム權アリ

- 一 僧侶ハ其委託ヲ受ケタル秘密事件ニ付キ
- 二 辯護人ハ其委託ヲ受ケタル事件ニ付キ
- 三 代言人醫師ハ其職業ニ因テ委託ヲ受ケタル事件ニ付キ
(穩婆ハ醫師ニ含有ス)
- 二三ニ掲ケタル者他言ヲ許サレタルモハ其陳述ヲ拒ムコトヲ
得ス

第九十八條 物件差押ハ裁判官至急ヲ要スルモハ檢事及ヒ其命
令ヲ受クヘキ警察官之ヲ爲スコトヲ得

裁判官ノ命令ヲ受ケスシテ物件ヲ差押ヘタル官吏ハ本人若クハ
其家屬ノ者立會ハサルカ又ハ本人ヨリ若クハ其不在ノ場合ニ於
テ其家屬ヨリ差押ニ對シ故障ヲ述ヘタルモハ其差押ニ付キ三日
内ニ裁判官ノ認可ヲ受クヘシ

本人ハ何時タリトモ其差押ニ對シ裁判官ノ裁定ヲ乞フコトヲ得其

裁定ハ未タ公訴ヲ爲サ、ル間ハ物件ヲ差押タル地ヲ管轄スル裁判所ノ區裁判官之ヲ爲スヘシ

公訴ヲ爲シタル後檢事若クハ警察官ヨリ物件ヲ差押ヘタル時ハ三日内ニ其旨ヲ裁判官ニ報知シ且差押タル物件ヲ裁判官ノ所分ニ委ヌヘシ

軍用建築物内ニ於テ物件ヲ差押ルニハ(艦船モ亦同)軍事ノ官署ニ囑托スヘシ又官署(裁判官檢事)ノ求メニ因テハ共ニ其所分ヲ爲スヘシ但軍用建築物内ト雖モ官吏ノ住所ニ於テ差押ノ所分ヲ爲スニハ軍事官署ニ囑托スルヲ要セス

第九十九條 被告人ニ宛タル文書及ヒ贈物ハ郵便局ニ於テ又電信ハ電信局ニ於テ差押フルコトヲ得又郵便局電信局ニ於テ被告人

ヨリ差出タル歟若クハ差宛タル證跡アル文書贈物及ヒ電信ヲ差押フルコトヲ得但審問ノ爲メ必用ナルモノニ限ルヘシ

第百條 物件差押ハ(第九十九條)裁判官ニ限り又急速ヲ要スル場合ニ於テ其事件違警罪ノミニ非サル時檢事モ亦之ヲ爲スコトヲ得但檢事ハ受取りタル物件ヲ直ニ裁判官ニ差出スヘシ文書其他ノ贈物ハ開披セシテ差出スヘシ

檢事ヨリ命シタル差押所分ハ未タ物件ヲ受取ラサル前ト雖モ三日内ニ裁判官ノ認可ヲ得ルニ非サレハ其効ナシ

檢事ヨリ命シタル物件差押並ニ受取りタル文書若クハ贈物ヲ開披スルニ關スル裁定ハ管轄裁判官之ヲ爲スヘシ(第九十八條)

第百一條 物件差押ニ關スル處分ハ(第九十九條第百條)審問ノ

目的ヲ妨クルニ非サレハ關係者ニ報知スヘシ

開披ヲ命セサル文書物件ハ直チニ關係者ニ還付スヘシ又開披シタル後無用ナル物件モ亦還付スヘシ

還付セサル文書ニシテ之ヲ他ニ漏泄スルモ審問ニ妨ケナキモノハ文書受取人ニ其寫ヲ送付スヘシ

第二百二條 正從犯若クハ贓物ヲ藏匿スルノ疑アル者ノ家屋其他ノ場所並ニ本人及ヒ其所有物件ハ本人ヲ捕縛スル爲メ又ハ證據物ヲ發見スヘシト思慮スルルルハ其搜索ヲ爲スコヲ得

第二百三條 他人ノ家宅搜索ハ被告人ヲ捕縛スル爲メ又ハ罪證ヲ探偵スル爲メ又ハ一定ノ物件ヲ差押フル爲メニシテ且其場所ニ被告人罪證又ハ物件ノ存在スル證據アルニ非サレハ搜索スルコ

ヲ得ス

此制限ハ被告人ヲ捕縛シタルカ若クハ追捕ノ時踏入リタルカ又ハ監視ニ付セラレタル者ノ住居寄留スル場所ニ適用ス可カラス
第四百四條 夜中ニ家宅店舗及ヒ牆壁内ヲ搜索スルニハ現行犯ヲ追捕スル爲メ又ハ至急ノ場合ニ於テ又ハ脱獄シタル者ヲ捕縛スル爲メニ非サレハ爲スコヲ得ス

此制限ハ監視ニ付セラレタル者ノ家宅及ヒ夜間諸人ニ出入ヲ許シタルカ若クハ警察官署ニテ曾テ刑ニ處セラレタル者ノ旅店集會所ト認メタルカ又ハ犯罪ニ因テ得タル物件ノ藏匿所若クハ賭博場賣淫場ト知レタル場所ニハ適用ス可カラス

夜中トハ四月一日ヨリ九月三十日マテハ午後九時ヨリ午前四時

マテヲ云ヒ十月一日ヨリ三月三十一日マテハ午後九時ヨリ午前六時マテヲ云フ

第二百五條 家宅搜索ノ命令ハ裁判官及急速ノ場合ニ於テハ檢事及ヒ其命ヲ受クル警察官之ヲ爲スコヲ得

家宅店舗又ハ端壁内ヲ搜索スルハ裁判官又ハ檢事ノ立會ナケレハ成ルヘク團結官吏一人又ハ搜索スル地ノ人民二人ヲ立會スヘシ人民ノ立會ヘキ者ハ警察官ニ非サル者ニ限ルヘシ

前二項ノ制限ハ第四百四條第二ニ掲ケタル家宅及ヒ場所ニ適用ス可カラス

軍用ノ建築物ヲ搜索スルニハ軍事ノ官署ニ囑托スヘシ又官署(裁判官檢事)ノ求メニ因リ共ニ之ヲ爲スヘシ但軍用建築物内ト

雖モ官吏ノ住所ハ軍事官署ニ囑托ヲ要セス搜索スルコヲ得

第二百六條 搜索スル場所若クハ物件ノ所有者ハ搜索ニ立會フコヲ得本人不在ナルハ成ルヘク其代理人若クハ家屬_{丁年者}同居人隣佑ノ者一人ヲ立會スヘシ

所有者又ハ不在ノハ立會シタル者ニハ第三百三條第一項ノ場合ニ於テハ搜索スル前ニ其目的ヲ通知スヘシ第四百四條第二項ニ掲ケタル場所ノ所有者ニハ通知スルニ及ハス

第二百七條 搜索ヲ受ケタル者ニハ之ヲ終リタル後本人ノ求メニ因リ搜索ノ理由(第二百二條百三條)及ヒ第二百二條ノ場合ニ於テハ犯罪ヲ記シタル報知書ヲ交付スヘシ又本人ノ求メニ因リ取上ケ又ハ差押ヘタル物件ノ目錄ヲ交付スヘシ但其物件犯罪ニ關係ナキ

トハ其旨ヲ記シタル證書ヲ與フヘシ

第百八條 家宅搜索ノト審問ニ關係ヲ有セサルモ他ノ犯罪ノ證據ト爲ルヘキモノト察シタルトハ仮リニ之ヲ取押ヘ其旨ヲ檢事ニ通知スヘシ

第百九條 取上ケ又ハ差押ヘタル物件ハ詳細ニ之ヲ記載シ官印ヲ捺シ若クハ記號ヲ附シ他物ト混同セシム可カラス

第百十條 搜索ヲ受ケタル者ノ文書ヲ檢閱スルトハ裁判官ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得其他ノ官吏ハ文書ノ所有者ヨリ承諾ヲ爲シタルトニ非サレハ文書ヲ檢閱スルトヲ得ス所有者ニ於テ承諾ヲ爲サ、ルトハ其文書ヲ封シ所有者立會ノ上官印ヲ捺シ之ヲ裁判官ニ差出スヘシ但其檢閱ヲ必要ナリト認メタルトニ限ルヘシ

文書ノ所有者又ハ其代理人ハ私印ヲ捺用スルトヲ得又文書ヲ開封檢閱スルトモ成ルヘク所有者ヲシテ立會ハシムヘシ

裁判官ハ犯罪ニ關係アル文書ヲ檢事ニ送付スヘシ

第百十一條 犯罪ニ因テ得タル物件ハ他人ヨリ之ヲ求メサレハ審問ヲ終リタル後又場合ニ因テハ審問ヲ終ラサル前ニ職權ヲ以テ被害者ニ還付スヘシ但其裁定ヲ要ス
又關係者ハ民事訴訟手續ニ從テ其權利ヲ求ムルトヲ得ルハ格別ナリトス

千八百七十一年十月廿八日ノ獨逸郵便規則第五條文書ノ秘密ハ犯ス可カラス刑事審問若クハ家資分散又ハ民事訴訟手續ノ爲メ必用ナル例外ハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ其法律ヲ發スル迄ハ連

邦ノ法律ニ從フヘシ

第七條 何人タリトモ法律ニ定メタル裁判官及ヒ裁判所ヨリ法律外

ニ取除カルハコナシ

又ハ臨時委員ヲ設クルコトヲ許サス裁判管轄ハ治罪法訴訟法トニ
預メ定メタルモノニシテ縱ヒ政府タリトモ自カラ其管轄ヲ變ス
ルコトヲ得ス例ヘハ獨乙ニ於テ千八百二三十年頃ニ獨逸國ヲ一統
センコトヲ唱ヘ又人民ノ自主自由ヲ唱ヘタリ其時ニ臨時委員ヲ設
ケテ其自由黨ヲ殘酷ナル刑ニ處セシコトアリ然レモ今日ヨリ看レ
ハ今帝又ハ「ビスマルク」ノ政畧ハ毫モ其時ノ自由黨ノ說ニ異ナ
ルコトナシ是故ニ更ニ如此委員ヲ設クルコトナカラシムルカ爲メ本
條ヲ設立シタルモノナリ

併カラ籠城ノ事ニ限り一時本條ノ効力ヲ停止スルコトアリ則チ千
八百五十一年六月四日ニ發シタル籠城公告規則アリ其籠城公告
ハ戰時ニ在テハ鎮臺司令官又ハ將帥ヨリシテ公告スヘシ平時ニ
於テハ(例ヘハ徒黨力起リ内亂ノ起リタルルハ籠城ノ有様ナル
コトヲ布告スルコトナリ)内閣ヨリ公告ス然ルルハ文官ノ權力ハ盡
ク武官ニ歸スヘシ又ハ内閣ノ命令ニ因テ士官三人ト裁判官二人
ヨリ特別ノ裁判所ヲ設ケ國事犯謀殺等ノ所犯ヲ裁判セシム

第八條 刑罰ハ法律ニ從テ之ヲ宣告シ又ハ之ヲ執行スルコトヲ得ルノ

刑罰ハ刑法又ハ警察規則ヲ以テ之ヲ科スルコトヲ得ル者ニシテ政
府ト雖モ擅ニ科スルコトヲ得ス刑法ノ原則ニ從ヘハ法律ナケレハ

犯罪ナシト云フカ如シ故ニ所犯ノ時ニ必ス定メタル法律ナケレ
ハ如何ナル所爲ト雖モ之ヲ罰スルコトヲ得ス
則獨逸刑法第二條罪ヲ犯スル法律ニ正條ナキモノハ何等ノ所爲
ト雖モ之ヲ罰スルコトヲ得ス犯罪ノトト判決ノトトノ法律異ルル
ハ寛ナル法律ニ從フヘシ

第九條 所有權ハ之ヲ犯ス可カラス然レモ公益ノ爲メ法律ニ從テ先
ツ其償却高ヲ定メ又ハ至急ノ場合ニ於テハ仮リニ償却高ヲ定メテ
所有權ヲ奪取シ又ハ制限スルコトヲ得ルノミ

所有權ハ已レ親カラ其物件ヲ隨意ニ支配シ他人ヲシテ之ニ關涉
セシメサル權ヲ云フナリ然レモ一已一人ノ支配權ト公益ト抵觸
スル場合例ヘハ鐵道ヲ施キ堤防ヲ築キ道路ヲ設クル等ノ場合ニ

於テハ自然一已一人ノ支配權ハ公益ニ讓ルヘシト雖モ其際ニハ
法律ニ定メタル償却金ヲ給セサル可カラス

公益ト一已一人トノ間ニ抵觸スルルハ英國ニ於テハ其場合毎ト
ニ法律ヲ發シ之ヲ定ムレモ獨逸ニ於テハ然ラス豫メ法律ヲ以テ
其場合ヲ定メリ其公益ノ爲メ其支配權ヲ讓ルヘキ場合アルヤ否
ハ帝ヨリ布告ヲ發シテ之ヲ定ムルナリ又其償却高ハ關係者ノ間
ニ協議ヲ遂ケサルルハ裁判所ニ於テ之ヲ決定スヘシ以上ノ場合
ハ土地ニ關シタルコトヲ云フナリ之ヲ「エキスプロプリヤチオン」
ト云フ則所有權ヲ奪フト云フ意味ナリ

千八百七十四年六月十一日ノ土地買上規則ヲ見ルヘシ

第十條 準死及ヒ財産沒收ハ之ヲ用フルヲ許サス

準死トハ人間タル者ノ權利ヲ沒收シ盡スコトヲ云フ故ニ何人ニテモ準死ニ處セラレタル者ヲ傷害スルコトヲ得例ヘハ空中ノ鳥ノ如シ何人ニテモ之ヲ殺スコトヲ得ヘシ今日歐洲各國ニ於テ準死ノ刑ヲ廢スル所以ナリ

財産沒收ハ止テ法律ニ掲ケタル場合例ヘハ犯罪ニ因テ得タル物件犯罪ニ供スル物件等ノ外ハ犯人ノ財産ヲ沒收スルコトヲ得ス

第十一條 植民トナルノ自由ハ國家ノ爲メ止テ徵兵義務ニ因テノミ之ヲ制限スルコトヲ得植民稅ハ之ヲ取立ツ可カラズ

植民ノ自由ハ國民權ヲ放棄シテ自國ヲ離ル、者ノ自由ト同一ナリ然レモ徵兵年齡ノ間ハ其義務ヲ有スルカ爲メ其自由ヲ制限セラル、コトアルナリ

植民稅トハ往昔植民タルコトヲ減センカ爲メ所有財産ノ一部ヲ

植民者ヨリ取立タル稅ナリ

元來植民ノ自由ハ万国公法ニ於テ認タル自由ナリト雖モ一般徵兵ノ法律アル國ニ於テハ國民タルノ義務ヲ盡スカ爲メニ自カラ其自由ヲ制限セサルヲ得ス但常備兵ハ其常備兵中其義務ヲ有スレモ其他ハ其時間ト雖モ左ノ要件ニ因テ其義務ヲ免カル、コトヲ得則十七歲ヨリ二十五歲マテノ徵兵適齡ノ者ハ徵兵委員ヨリ徵兵ヲ免カル、カ爲メニ非サルノ證書ヲ得レハ植民タルコトヲ得後備軍ニ編入セラル、者及ヒ軍醫等ハ其長官ヨリ許可ヲ得テ植民タルコトヲ得

獨逸刑法第四百十條及ヒ第三百六十條第三ニ徵兵ヲ免カル、カ爲メニ植民タル者ノ罰アリ

獨逸刑法第四百十條 左ニ掲クル者ハ徵兵義務ヲ免カレタル者トシテ罰スヘシ

一 陸海軍ノ常備兵ニ加ハル、コヲ免カレン爲メ許可ナクシテ獨逸國ヲ去ルカ又ハ徵兵適齡ノ後外國ニ滞留スル者ハ百五十マルク以上三千マルク以下ノ罰金又ハ一月以上一年以下ノ禁獄ニ處スヘシ

二 非職ノ士官又ハ其同級ノ軍醫許可ナクシテ植民タル者ハ三千マルク以下ノ罰金又ハ拘留又ハ六月以下ノ禁獄ニ處スヘシ
三 皇帝ヨリ戰時又ハ戰爭ノ起ラントスルニ特別ノ命令ヲ公告シタル後其命令ニ違テ植民タル者ハ二年以下ノ禁獄ニ處シ三千マルク以下ノ罰金ヲ附加スルコヲ得

本條ノ未遂犯ハ其罪ヲ問フヘシ

被告人ノ財産ハ裁判官ノ意見ニ從ヒ最多額ノ罰金及ヒ裁判費用ニ充ツヘキ分ニ限り之ヲ差押フルコヲ得

第三百六十條 第三許可ナクシテ植民ト爲リタル歸休兵豫備兵及ヒ軍事官署ニ届出スシテ植民ト爲リタル一等ノ補缺豫備兵ハ百五十マルク以下ノ罰金又ハ拘留ニ處スヘシ

第十二條 宗旨ノ自由及ヒ同宗組合ノ自由及ヒ公私ノ別ナク禮拜ヲ爲スノ自由ハ之ヲ犯ス可カラス

國民權ハ宗旨ニ關涉セス國民ノ義務ハ宗教自由ヲ口實トシテ之ヲ免カル、コヲ得ス

抑宗教ノ自由ハ現今ハ開明國ノ輿論ニシテ國家安危ノ關スル所

トナレリ例ヘハ伯林會議ニ於テ「ルメーリン」「プルガーリエン」ヲ
獨立セシムル際ニ宗旨ノ自由ヲ保證セシメテ其國ヲ獨立セシメ
タルカ如シ

普國ニ於テハ既ニ「フリドリ―ヒ、デル、グローゼ」ガ此宗旨自由ヲ
國內ニ保證セリ其語ニ曰ク何人タリトモ己レノ信スル所ニ從テ
幸福ヲ得ヘシト云ヘリ

此宗旨ノ自由ハ第一ハ何人ニテモ隨意ニ己レノ信スル所ノ宗旨
ニ從フコヲ得第二ニハ同宗ノ者カ相集テ組合ヲ作ルコヲ得第三
ニハ其信スル所ノ宗旨ノ禮拜ヲ爲スニハ密カニ家内ニ於テ之ヲ
爲スモ又ハ公ケノ所ニ於テ之ヲ爲スモ自由ナリトス
國民權ヲ得ルニハ更ニ宗旨ニ關涉スルコナシ

宗旨ノ自由ヲ口實トシテ國民タルノ義務ヲ免カル、コヲ得ス例
ヘハ其宗旨ニテ人ニ對シ鐵炮ヲ發ツコヲ禁シタルヲ口實トシ徵
兵ノ義務ヲ免カル、コ能ハサルカ如シ

千八百六十九年七月三日ノ國民ノ關係ニ付キ兩宗派ニ（カトリック
スタント）同等ノ權ヲ付與スル法律アリ

宗派ノ異ナルニ因テ生シタル國民權ノ制限ハ盡ク廢スヘシ就中
團結（郡區分）及ヒ人民（國會）ノ代議士及ヒ官吏ト爲ルノ權ハ宗
派ノ如何ニ關セス之ヲ得ヘキモノトス

第十三條 宗旨組合並ニ宗旨ノ目的ヲ達スルカ爲メ設クル組合ノ法
律上人ト看做スヘキ者ノ權利ヲ有セサル者ハ止テ法律ニ因テ之ヲ
得ルノミ

新タニ一宗旨ヲ開キ其組合ヲ作ルカ又ハ舊來ヨリノ宗旨ニ歸從スル者ニシテ其宗旨ヲ他國ニ開カントスルノ目的ヲ以テ新タニ組合ヲ作り因テ法律上人ト看做スヘキ者ノ權利ヲ得ントスルニハ別段ノ法律ヲ發シテ之ヲ與フヘシ此權利ニハ特權アリ例ヘハ租稅ヲ免カレ又ハ裁判所ニ於テ未丁年者ト同一視セラレ又ハ期滿得免ノ期限ヲ永クシ又ハ義務者ニ對シ執行ヲ爲スノ權ヲ有スル等ナリ裁判所ニ訴フルコト然レモ是等ノ組合ハ政府ノ監督ヲ免カル、コトヲ得ス

千八百四十七年三月三十日ノ宗旨組合ヲ設クルコトニ付テノ規則及ヒ千八百五十年三月十一日ノ集會條例第二條ヲ引用セリ
集會條例第二條國事ヲ目的トスル結社ノ會頭ハ其社則及ヒ社員

人名簿ヲ結社三日前ニ地方警察官署ニ差出スヘシ又社則及ヒ社員ノ變更アルモ亦三日内ニ之ヲ届出ヘシ地方警察官署ノ求ニ因テハ社ニ關スル詳細ヲ差出スヘシ
地方警察官署ハ社則及ヒ社員人名簿又ハ其變更ヲ差出シタルコトニ付キ直チニ其受領證ヲ交付スヘシ
本條及ヒ前條ノ規則ハ結社ノ權利ヲ有スル宗教組合及ヒ其集會ニハ適用スヘカラス
宗教組合ヲ設クル規則

朕「フリドリ―ヒ、ウイルレム」ハ内閣ヨリ差出シタル宗教ノ自由ニ關スル普國法律全書中ノ條件ヲ公告スルニ當リ一ハ沿革ニ基キ若クハ條約ニ因テ得タル「プロテスタント」宗及ヒ「カトリック」

宗ノ寺院ノ特權ハ將來モ亦保護シテ其特權ヲ維持セシメ又一ハ國民ニ普國法律全書ニ掲ケタル宗教ノ自由ヲ維持セシメ且其宗派ノ組合ヲ自由ニ作ラシメント欲スルナリ

自己ノ信仰スル所却テ從來屬スル所ノ宗派ニ違ヒ別ニ組合ヲ設クルカ又ハ他ノ組合ニ入社スル者從來ノ宗旨組合ナレハ自由ニ國民權及ヒ其榮譽ヲ得ヘシ但普國法律全書第二編第二章第五條第六條及第二十七條ヨリ第三十一條及ヒ第百十二條ニ從フヘシ然レモ宗派ヲ離レタル者ハ寺院憲法ニ掲ケタル從來ノ權利ヲ失フヘシ

新タニ設ケタル宗教組合ニシテ「ツヘストハーレン」ノ訂約ニ因テ獨逸國ニ行ハル、「キリスト」宗黨派ノ宗旨ニ違ハス且寺院管

理局ニ設ケタルモノハ其組合ヲ許可スルト同時ニ管理局ニ普國法律全書又ハ獨逸普通法ヲ用ユル地方ニ於テ民事ニ關スル僧侶ノ職掌ヲ行フノ權ヲ與フヘシ其他新設ノ宗旨組合ニ以上ニ掲ケルヨリ外ノ特權ヲ與フヘキヤハ其時ノ情況ニ從ヒ朕之ヲ定ムヘシ

其他ノ場合ニ於テハ普國法律全書ニ從ヒ未タ政府ノ許可ヲ受ケサル宗旨組合ハ其僧侶ノ爲シタル民事上ノ處分ハ民法上ノ効力ヲ有セス此所分ハ本日發シタル布告ニ從ヒ通常ノ裁判所ニ於テ之ヲ爲スヘシ但公認シタル從來ノ「キリスト」宗寺院ノ僧侶ヲシテ其處分ヲ爲サシムルモ別ニ異議ナケレハ其効アルモノトス方今宗教上ノ動搖ニ因テ新タニ宗旨組合ヲ作クル要領ヲ示シタ

レ正從來ノ經驗ニ從ヒ當時ノ情況ヲ參考シテ普國法律全書ノ宗教ニ關スル條件ヲ増補スルコトハ朕ノ權ニアリ

第十四條 宗旨ノ禮拜ト關涉スル國家ノ政度ヲ設クルニハ耶蘇宗ヲ

根據トスヘシ但第十二條ノ宗旨自由ヲ害スヘカラス

國家ノ政度トハ議院ヲ開ク前ニ禮拜ヲ行ヒ又ハ戰場ニテ說教ヲ爲シ又ハ日曜日大祭日ヲ設クルコトヲ云フ

第十五條第十六條第十八條ハ廢止セリ

是等ノ條ハ寺門ト政府トノ關係ヲ定メシ者ナリ憲法頒布以來別段ノ法律ヲ發シテ其關係ヲ定メ是等ノ條ハ千八百七十五年六月十八日ノ法律ニ因テ廢止セラレタリ其法律千八百五十年一月三十日ノ憲法第十五條第十六條第十八條ハ之ヲ廢止スヘシ

舊第十五條 「プロテスタント」及ヒ「カトリック」宗ノ寺院并ニ他ノ宗旨組合ハ自カラ其事件ヲ制定管治シ且其拜禮教育法ニ關スル建築物寄附金及資本ヲ費用スルコトヲ得

舊第十六條 宗旨組合ト其總督トノ交通ハ之ヲ障害ス可カラス寺院ノ命令ヲ公告スルニハ其他ノ公告ニ付キ定メタル制限ニ從フヘシ

舊第十八條 僧侶ノ任命申立選舉認可ニ關スル權ノ政府ニ屬シ且特權其他特別ノ契約ニ因ルモノニ非サレハ之ヲ廢止スヘシ軍事及ヒ公立建築物ニ僧侶ヲ任命スルニハ此規則ヲ適用スヘカラス

第十七條 寺院ニ關スル特權及ヒ之ヲ廢止シ得ル要件ハ別ニ法律ヲ發シテ之ヲ定ムヘシ

寺院ニ關スル特權トハ寺門ヲ興起シタル時之カ爲メ財産ヲ出スカ又ハ土地ヲ寄附シテ得タル財産管理及ヒ說教者ヲ任命スル權ヲ云フ本條ハ現今ハ殆ト無用ニ屬スルモノナレトモ未タ之ヲ廢止セサルナリ

此法律未タ發セス千八百七十三年九月十日ノ東六州ノ寺院團結及ヒ其集會規則第三十二條以下ヲ見合ス可シ

第三十二條僧侶ヲ選任シ及ヒ其時團結ノ之レニ加ハルコトニ付テノ規則並ニ普國法律全書第二篇第二章第三百三十條ヨリ第三百三十九條ニ因リ團結ヨリ故障ヲ爲スノ權ハ憲法第十七條ニ掲ケタル法律ヲ發スル迄ハ左ノ如ク折衷シテ之ヲ適用スヘシ

一古來ヨリ寺院團結ノ選舉官ニ附與シタル僧侶選任ニ加ハル權

ハ將來ハ團結寺院官ト團結代理人ト共ニ之ヲ行フヘシ古來ヨリ僧侶ヲ選任スル爲メ設ケタル選舉官ニ加ハル權ハ其團結又ハ其他ノ組合ハ證明シ得ル特權其他ノ特別ノ契約ニ因テ得タルニ非サレハ之ヲ失フヘシ

二古來ヨリ國庫ノ特權及ヒ特別ノ寺院規則又ハ寺院主權者ヨリ交付シタル特許ニ因ル僧侶ハ從來ハ時トシテハ寺院官署ノ獨斷ヲ以テ之ヲ任シ時トシテハ團結ノ選舉ヲ以テ之ヲ任スヘシ其選舉ハ團結寺院官ト團結代理人ト共ニ之ヲ爲スヘシ國王ハ又布告ヲ發シテ任選法ヲ定ムルコトヲ得レトモ當分ハ古來ノ方法ニ從フヘシ

僧侶ノ官職ヲ附與スルト同時ニ寺院主權職ヲ附與スルコトニ付

テハ此規則ヲ適用スヘカラス

第三十三條團結寺院官ハ他ノ事件ニ付キ必用ナリト認メタル

事ハ又團結代理人ノ議決ヲ取ルコトヲ得

其議決ハ團結寺院官ニ於テ遵奉スヘシ

第十九條 行政婚姻及ヒ死生婚姻簿ハ法律ヲ發シテ之ヲ定ムヘシ

往古ハ死生婚姻ノ事ニ關シテハ寺門ニ於テ一切之ヲ管掌セリ然

ルニ本條ヲ設ケテ之ヲ制限セリ

國家ハ元ト家族ノ集リタル者ヨリ成立ツ者ナレハ政府ハ官吏ヲ

シテ其家族ノ死生婚姻ヲ調査管理スルコトハ必要ナリトス婚姻ニ

二アリ人民ノ義務ト爲スト人民ノ隨意ニ任ストニアリ人民ノ隨

意ニ任スルコトハ有名無實ナル者ナリ何トナレハ隨意ニ任スル婚

姻ハ盡ク僧侶ノ管掌ト爲リ止タ僧侶ニテ拒ミタル場合ノミ行政

官ノ管掌ニ歸スレハナリ普魯西ニ於テハ未タ法律ヲ以テ行政婚

姻及ヒ死生婚姻簿ヲ定メサレモ千八百七十年代ニ至リ獨逸國ニ

於テハ法律ヲ發シ始メテ行政婚姻及死生婚姻簿ヲ定メタリ此法

律ニハ人民ノ義務タル婚姻法ヲ設ケタルナリ且其簿冊ノ管理ハ

村官ヲシテ之ヲ擔任セシメタリ此法律發行後ト雖モ始メ行政婚

姻ヲ爲シ又ハ死生簿ニ記入シタル後ナレハ再ヒ僧侶ニ就キ其婚

姻式ヲ行ヒ又ハ死生ヲ僧侶ノ簿冊ニ記入スルハ妨ケナシ

如此法律ヲ設ケシト雖モ現今議院ニ於テ僧侶黨ヨリ抗論アリ

テ之ヲ廢シ寺門婚姻ノミニ歸セントセリ則寺門ニ於テハ婚姻ハ

僧侶ノ面前ニ於テ爲スヲ有効ト爲シ村官ノ面前ニ於テ兩人ノ同

意ヲ表スルコトヲ無効ナル者ト爲サントセリ

千八百七十五年二月六日ノ死生婚姻登記規則ヲ見ルヘシ

第二十條 學術及ヒ學派ハ自由ナリトス

政府ハ教師ノ教育ヲ爲ス科目ヲ定ムルコトヲ得ス教師ハ自由ニ學派ヲ立ルコトヲ得例ヘハ普國ノ學校ニ於テ王國政体ヨリハ共和政事ヲ善トスルノ說ヲ主張シ或ハ天帝ナシノ說ヲ主張スルモ亦自由ナリトス併カラ人民ヲ煽動シ一揆ヲ起スヘキ勢ニ至リタルハ自ラ刑法ニ處スヘキコトハ勿論ナリ

第二十一條 幼年者ノ爲メ公立小學校ヲ設ケ十分ナル教育ヲ注意スヘシ

本條ノ意ハ政府ハ公立小學校ヲ設ケテ幼年者ヲ教授スヘキ義務

アルコトヲ云フナリ

或ル論者ニ從ヘハ國家ハ止タ人民ノ權利ヲ保護スルカ爲メニ成立スル者トセリ又或ル他ノ說ニ從ヘハ夫ノミナラス人民ノ幸福及ヒ教育ヲ受クルカ爲メニ成立スル者トセリ則普國ノ如キハ後說ヲ取リテ人民ノ教育ニ注目シタルナリ

兩親及ヒ其代理者ハ其子又ハ養子ノ爲メ公立小學校ニ於テ受ク可キ教育ヲ怠ル可カラズ

羅馬人種ノ國ノミナラス英國ニ於テモ人民ノ教育ハ一己一人ノ隨意ニ任スモノトスレモ獨逸國ニ於テハ之ニ反シ人民ニ教育義務ヲ負擔セシメタリ其利益タルニアリ第一ハ國家ノ利益則人民ニ小學校教育ノ義務ヲ負擔セシメ善良ナル人民タラシメ因テ人

材ヲ作ル是レナリ又第二ハ國家ヨリ其義務ヲ負ハシメタルカ爲
メ全ク無學ナルモノナシ是レ人民ニ於テノ利益ナリ

獨逸國ノ漸々富強ニ成リタルモ畢竟一般ノ教育義務ヲ負ハシメ
官吏ニ人材ヲ得タルト一般ノ徵兵義務ヲ負ハシメタルトノ二ツ
ニ歸スルナリ

第二十二條 教授ヲ爲シ又ハ學校ヲ設クルニハ其品行善良ニシテ且
學問及ヒ教育法ヲ學ヒタルコトヲ管轄官署ニ證明シタルルハ何人ト
雖モ之ヲ爲スコトヲ得

國家ハ人民ニ教育ノ義務ヲ負擔セシムレハ必シモ公立小學校ニ
於テ教育ヲ受ケシムルノ意ニ非ス止タ公立學校ニ於テ受クヘキ
丈ケノ教育ヲ爲サシムルノ義務ヲ負擔セシムルナリ然レハ何人

ヨリ教育ヲ受クルモ妨ケナシト云フニ非ス故ニ教育ヲ爲ス者ハ
先ツ其品行及ヒ學問若クハ教育法ヲ學ヒタルコトヲ管轄官署ニ證
明シタル後ニ非サレハ擅ニ教育ヲ爲スコトヲ得ス「プロビンチヤ
ルシユルマレギウン」學校設立ノ願ハ縣ニ差出シ其學ヒタル年
限學校ノ繪圖其他一切ノ履歷書ヲ添ヘ許可狀ヲ受クヘシ

第二十三條 凡テ公立及ヒ私立學校ハ政府ヨリ定メタル官署ノ監督
ヲ受クヘシ

官署ノ許可ヲ得テ設立シタル學校ハ設立シタル後ト雖モ常ニ政
府ノ監督ヲ受クヘシ故ニ之カ爲メ別段ノ規則ヲ發シ其方法ヲ定
ムヘキモノナレハ今日ニ至ルマテ未タ其規則ヲ發セス然レハ現
今實際ノ監督ハ憲法發行前ノ規則ニ從テ縣廳第二課縣ニ屬スル
學校監督掛

州學校掛及ヒ文部卿ニテ之ヲ監督セリ

公立學校ノ教師ハ政府官吏ノ權利義務ヲ有スヘシ

千八百七十二年三月十一日ノ學校監督規則

第一條公立及ヒ私立學校ノ監督ハ政府ニ於テ爲スヘシ連邦ノ法

律ニシテ此規則ニ抵觸スルモノハ廢止タルヘシ

故ニ此監督ヲ爲スヘキ官署及ヒ官吏ハ政府ノ命令ヲ受ケテ爲ス

ヘキモノトス

第二條地方ニ於ケル學校監督官ノ任命及ヒ其管轄地ノ區畫ハ政

府ヨリ之ヲ爲スヘシ

第三條學校監督ニ參與スル團結及ヒ其官署ノ權并ニ普國憲法第

二十四條ハ此規則ニ因テ變セラル、コナシ

第四條文部卿ハ此規則ヲ施行スヘキ任アリ

第二十四條 公立小學校ノ教育法ハ精々宗派ニ注意シテ之ヲ定ムヘ

シ

宗派ニ注意スルトハ小學校アル地ノ宗旨組合ノ多少ニ因テ宗旨

ノ教育ヲ定ムルコトヲ云フ例ヘハ「プロテスタント」宗ノ多キ地方

ニ於テハ「プロテスタント」ノ宗旨ヲ教育シ「カトリック」宗ノ多キ

地方ニ於テハ「カトリック」ノ宗旨ヲ教育スヘキコトヲ云フ併カラ

其他ノ科目(歴史究理學)ニ至テハ宗旨ノ爲メニ差別ヲ爲スコナ

シ是レ國家ハ人民ノ教育ヲ同等ニ望ム所以ナリ

小學校ニ於ケル宗旨ノ教育ハ宗旨組合ニテ總括スヘシ

小學校ニ於ケル宗旨ノ教育ニ至テハ其地ノ宗旨組合ヨリ其宗旨

ノ方法ヲ定メテ之ヲ教育スヘシ

小學校ノ教育外ノ事件ハ自治團結(村ヲ指ス)ニ於テ之ヲ總括スヘシ
シ政府ハ學力アル者ヲシテ公立小學校ノ教師ヲ命スヘシ但之ヲ命
スルハ法律ニ從ヒ自治團結ヲシテ之ニ與カラシム可シ

教育外ノ事件トハ學校ヲ設ケ又ハ其學校内ノ雜事ヲ云フ

法律ニ從フトアレヒ今日マテ未タ其法律ヲ發セス故ニ教師ヲ命
スルハ如何ナル方法ヲ用テ村ニ與カラシムルヤハ一定ノ規則ナ
シ

第二十五條 公立小學校ヲ設立シ及ヒ之ヲ保存シ又ハ之ヲ廣大ニス
ルコノ費用ハ自治團結ニテ之ヲ擔當スヘシ自治團結ニ其力ナキハ
ハ政府ヨリ其不足ヲ補フヘシ但別段ノ契約等ニ因ル他人ノ義務ハ

其儘之ヲ存スヘシ

學校費用ハ通常町村ニテ自ラ負擔スヘキモノトス何トナレハ學
校ノ雜事ハ町村ヨリシテ之ヲ總括スレハナリ

併カラ政府ハ人民ニ教育義務ヲ負擔セシムレハ町村ノ力ナキハ
ハ其不足ヲ給セサル可カラヌ町村ヨリシテ學校費ヲ取立ルニハ
必ス政府ノ法律ニ從テ之ヲ取立テ町村自ラ擅ニ取立ルコトヲ得
ス

別段ノ契約トハ例ヘハ某村ヨリ土地ヲ買フハ互ニ契約ヲ結ヒ
先ツ其代金千圓ヲ拂ヒ其殘金ハ年々學校保存費トシテ五十圓ツ
、ヲ拂フヘキ義務ヲ負擔シタルカ如キハ其儘之ヲ存シ自治團結
ニテ負擔スルヲ以テ消滅スルモノニ非ス其他遺言等ヲ以テ保存

ノ義務ヲ負擔シタル者モ亦同シ

故ニ政府ハ小學校教師ニ土地相當ノ一定ノ俸給ヲ給スヘキコトヲ保證スヘシ

小學校教師ノ俸給ヲ出スヘキ義務ハ町村ニ屬セリ政府ハ只々町村ヨリ俸給ヲ給スヘキコトヲ保證スルノミナリ(保證トハ俸給豫算表ヲ作ラシメ又ハ官吏ヲ派出シテ實地俸給ヲ受タルヤ否ヲ検査セシムルノ類ヲ云フ)公立小學校ニ於テハ學費ヲ受ケスシテ教授スヘシ

學費ヲ受ケスシテ教授スルトアレモ其原則ハ未タ實際ニ行ハレサルナリ佛國開明ノ時ニ大ニ其原則ヲ主張セシ者アレモ元來其原則ハ正當ナラス何トナレハ兩親タル者ハ其子ヲ教育ス

ヘキ義務アレハ固ヨリ學費ヲ出スヘキコト當然ナリ只兩親ノ貧窮ナル者ノミ學費ナクシテ教授スルヲ至當トセン

第二十六條 別段ノ法律ヲ發シテ教育ニ關スル一切ノ方法ヲ定ムヘシ

此法律ハ今日ニ至ルマテ發行セス其所以ハ獨逸國ニ於テハ國家ト自治團結トノ關係ヲ定ムルコト甚タ難ク又宗旨ハ大ニ政界上ニ關係ヲ有スレハ政府ト宗旨トノ間ノ關係ヲ定ムルコト最モ難キカユヘ之ヲ定ムルコト能ハサレハナリ

第二十七條 各普魯西人ハ言語文書印刷圖書ヲ以テ自由ニ自己ノ說ヲ立ルノ權アリ

出版物ニ付キ其原稿ノ調査ハ之ヲ爲ス可カラズ其他出版自由ヲ制

限スルコトハ止テ法律ヲ以テ之ヲ爲スヲ得ルノミ

本條及ヒ次條ハ出版ノ自由權トシ人民ノ生カラニシテ有スル者ナリ此自由ヲ制限シタル法律ハ千八百七十四年七月七日ノ出版條例是レナリ

其總則ニハ憲法ノ出版自由ヲ載セタルモノニシテ止テ條例ニ因テノミ制限アルコトヲ示セリ

此條例ハ專ラ出版物ニ付テ定メタル法ナリ出版物トハ印刷シタル物及ヒ之ヲ世ニ廣ムルカ爲メ器械又ハ舍密術ヲ以テ複寫シタル物ヲ云フ其複寫ニハ文書ヲ複寫スルアリ 圖畫寫眞ヲ包括スヲ複寫スルアリ 文字ノ有無ニ拘ハラズ 音樂ノ譜歌又ハ理解アル者ヲ複寫スルアリ(孰レモ之ヲ出版物トス)

廣ムルトハ字義ニ因レハ出版物ヲ多ク數人ニ廣ムルコトナレトモ此條例ニ於テハ此字義ヲ一層廣クシタリ例ヘハ一枚ノ物ニテモ公眾ノ縱覽スル所ニ貼付又ハ展示スルモ之ヲ廣ムル者トス 出版物ニ付營業ヲ爲スノ權ハ行政又ハ司法ノ手續ヲ以テ之ヲ取ルコトヲ得ス止テ營業規則ヲ以テ其權ヲ制限スルノミ則其制限トハ印刷者書肆書籍縱覽所等ハ其營業ヲ始ル日ニ其地ノ警察官ニ其店ヲ届出ヘシ又轉居スルモ亦其地ノ警察官ニ届出ヘキノ類又公ケニ出版物ヲ廣ムルニハ(公ケトハ道路又ハ明地ノ類)營業ノ爲メナルト否ラサルトニ拘ハラズ警察官ノ許可ヲ得ヘシ其許可ハ行商鑑札ヲ所持スル者ニハ之ヲ拒ムコトヲ得ス其鑑札ハ警察官ヨリ交付スヘキ者トス然レモ第一傳染病アル者第二重罪輕罪

ヲ犯シタル者ニハ其後二年間第三監視中第四勞力ヲ好マサル遊蕩者又ハ乞食風聞アル者ニ限り之ヲ交付スルヲ拒ムコトヲ得出版ヲ爲スニハ出版ニ加ハリタル者ハ各明カニ分別スヘキコトヲ要ス故ニ何レノ出版物ニ於テモ印刷者又タ廣ムル爲メノ印刷物ナルモハ出版人又著述シテ自ラ出版スルモハ其著述者及ヒ編纂者ノ分明ナルコトヲ要ス併ナカラ名刺物價表招待票投票紙ノ如キハ格別ナリトス

定期出版物(少クモ一ヶ月ニ一度ツ、發兌スル者)ニ於テハ印刷人及ヒ出版人ノ外ニ責任ヲ負ヘキ編輯人ノ氏名住所ヲ掲載スヘシ責任ヲ負ヘキ編輯人數名アルモハ各其責任ヲ負フヘキ部ヲ明カニ分別シテ記載スヘシ特ニ編輯人ハ財産處分ノ權及ヒ公權ヲ

有シ且獨逸國內ニ住居シ又ハ寄留スル者ニ限ルヘシ其出版物ヲ配當スルモハ其一葉ヲ警察官ニ配當スヘシ(配當スルコトハ人民ニ配當スルト少シモ異ラス)

但學術技藝工業製造等ニ關スル定期出版物ナルモハ警察官ニ配當スルニ及ハス定期出版物ニハ政府ヨリ依頼スルコトハ如何ナル事ト雖モ記載セサル可カラスト云フノ約束ナケレモ官署ノ公告ナレハ必ス其料ヲ得テ掲載スヘシ又官署及ヒ人民ヨリ正誤ヲ申入タルモハ無料ニテ成丈ケ同一ノ部ニ其正誤ヲ爲スヘシ其正誤ノ文字本文ヨリ多キモハ代料ヲ受クルコトヲ得

通信者ヨリ編輯人ニ通知スル複寫物等ハ定期出版ノ限ニ在ラス

外國ノ定期出版物ハ之ヲ發賣スルコトヲ禁スルコトヲ得サレモ一年
 内二度刑法ニ因テ處分セラレタルモ第二ノ判決ヨリ三ヶ月内
 ニ宰相ヨリ二ヶ年之ヲ廣ムルコトヲ禁止スルコトヲ得定期出版物ニ
 ハ何ナリトモ掲クルコトヲ得レモ戰時ニ於テハ兵ノ進退ヲ記載シ
 又ハ罰金裁判費用ヲ出版物ヲ以テ釀金シ又ハ其受領シタルコトヲ
 掲クルコトヲ得ス

又ハ刑事告訴狀及ヒ其他ノ書類ハ公廷ニ於テ朗讀スルカ又ハ裁
 判落着アルマテハ掲載スルコトヲ得ス此規則ニ背キタル者ハ千
 「マルク」以下ノ罰金ニ處セラレヘシ

出版物ノ事柄ノ罰スヘキ所爲アルモハ刑法ニ從テ罰スヘシ其正
 犯共犯又ハ從犯ナルカハ全ク刑法ニ從テ之ヲ定ムヘシ併ナカラ

定期出版物ニ於テハ其罰スヘキ責ヲ負フ者ハ毎ニ編輯人ナリト
 ス止々事情アリテ正犯ノ罰ヲ科スルコト能ハサルモハ格別ナリト
 ス例ヘハ編輯人ノ旅行スルモノ類

若シ正犯ナキモ編輯人出版人印刷人發賣人又ハ公ケニ廣ムル者
 過誤ノ罪ヲ受クヘシ然レモ著述人レキレシ編輯人レキレシ投書人レキレシ又ハ以上ニ掲
 クル一人トシテ獨逸内ニ寄留スルコトヲ證明シタルモハ以上ノ者
 ハ過誤ノ罪ヲ免カルヘシ何レノ場合ニ於テモ十分ニ注意スルカ
 又ハ注意スルコト能ハサルノ事故アルコトヲ證明スル者ハ其罪ヲ免
 カルヘシ

第二十八條 言語文書印刷圖畫ヲ以テ犯シタル所犯ハ刑法ニ從テ罰
 スヘシ

前條及ヒ本條ハ出版ノ自由權ヲ示シタルモノナリ

第二十九條 凡テ普魯西人ハ預シメ官署ノ許可ヲ得ルコトナク兵器ヲ
携帶セスシテ平穩ニ家屋内ニ集會スルノ權アリ

然レモ公ケノ場所ニ於テ集會スルコトハ法律ニ從テ預シメ官許ヲ得
ヘシ

此條ハ人民ノ生レナカラ有スル集會自由權ヲ示シタルモノナリ
兵器ヲ携ヘ公安ヲ妨ケサル以上ハ官許ヲ得スシテ家屋内ニ於テ
自由ニ集會スルコトヲ得レモ公ケノ場所ニ集會スルニ至テハ公安
ヲ害シ易キモノナレハ故ニ法律ニ於テ集會ヲ爲ス前ニハ必ス官
許ヲ得ヘキノ制限ヲ爲シタルナリ
千八百五十年三月十一日ノ集會結社條例是レナリ

第三十條 凡テ普魯西人ハ刑法ニ觸レサル目的ノ爲メ結社ヲ爲スノ

權アリ

就中公案ヲ保持スル爲メ法律ヲ發シテ前條及ヒ本條ノ權利ヲ施行
スルノ方法ヲ定ムヘシ

政事上目的ニ係ル結社ハ法律ヲ發シテ制限ヲ爲シ或ハ一時禁止ス
ルコトヲ得

此條ハ人民カ生レナカラ有スル結社ヲ爲スノ權ヲ示シタルモノ
ナリ則其目的タル刑法ニ抵觸シ官吏ヲ譏謗シ又ハ政体ヲ誹毀ス
ル如キ結社ニ非サレバ自由ニ結社ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ集會
又ハ結社ヲ爲スコトハ一人ノ權利ニ屬スルモノナレハ公安ニ
抵觸スルハ一人ノ權利ハ勝ツ可カラス故ニ其權利ヲ濫用

セサル爲メ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ政事上ノ目的ニ係ル結社ノ如キハ之ヲ制限スルコトヲ得ルノミナラス一時之ヲ禁止スルコトヲ得レトモ必ス法律ニ因ラサル可カラズ例ヘハ今日獨逸國ニ於テ法律ヲ以テ一時社會黨ノ結社ヲ禁止シタルカ如シ千八百七十八年十月廿一日ノ社會黨撲滅規則ヲ見ルヘシ

普魯西ニハ集會及ヒ結社規則アリ其大略ハ如何ナル結社ニ於テモ其目的ノ公ケノ事件ニ關スル學問及ヒ遊戯ノ爲メハ別ナリ集會ナレハ二十四時間前ニ其場所ト其時刻ヲ警察官ニ届出テ結社ナレハ結社後三日内ニ結社ノ規則ト社員人名簿ヲ警察官ニ差出スヘシ何レモ警察官ノ許可ヲ得ルコトヲ要セス併ナカラ警察官ハ受領證ヲ交付スヘシ之ヲ警察官ニ届出サシムルモノハ警察官ヨリ之ヲ監督

スルノ手術トナレハナリ

故ニ警察官ハ二人(多クモ)正服ヲ着シテ其席ニ臨ムコトヲ得又ハ他ノ官吏ヲ以テ其席ニ臨マシムルコトヲ得レモ必ス服飾ヲ着クヘシ是等ノ者ニハ至當ノ席ヲ與ヘ其求ニ因テハ會頭ヨリ演說者ノ人ト爲リヲ述フヘシ通常會頭ノ側ニ席ヲ設クヘシ

警察官ハ事宜ニ因リ左ノ場合ニハ其集會ヲ解散セシムルコトヲ得

第一届出タル片交付シタル證書ヲ示スト能ハサル片

第二罰スヘキ所爲ヲ教唆シ又ハ煽動スル片

第三兵器ヲ携ヘタル者ヲ退散セシムヘキ命ニ從ハサル片

警察官ヨリ命シタル片ハ必ス解散スヘシ若シ解散セサル片ハ兵カヲ以テ之ヲ解散セシム

解散ノ權ハ公安ヲ維持スル爲メニハ必用ナルモノト雖モ此權ヲ尋常下等ノ警察官ニ任スルハ法律ニ定メタル三箇ノ場合ヲ判斷スルコトナクシテ妄リニ之ヲ解散シ解散シタル後ニハ解散セラレタル者ヨリ警察官ノ長官ニ故障ヲ申立テ、却テ解散セシメタル警察官ノ所置ヲ誤リトスルコト屢々アレハナリ普國ニ於テ何レノ警察官ヲ臨席セシムルノ定メナシ故ニ下等ノ警察官ヲ臨席セシムルモ妨ナシ(實際ハ警部ヲ臨席セシムルナリ)考フルニ之ハ法律ノ缺典ナリトス宜シク上等ノ警察官ニシテ法律ニ委シキ者ヲシテ臨席セシムヘシ然ラサレハ法律ヲ知ラスシテ妄リニ解散セシムルノ弊アルヘシ千八百六十年代頃ニハ屢々解散セシメシコトアリ其頃ハ政府ト人民ト絶ヘス抵抗スレハナリ今日ハ政府

ト人民ト相和スレハ總テ是事ナシ
 政事上ノ目的ニ係ル結社ニハ女子及ヒ生徒大學校ノ生徒ヲ除ク營業者ノ丁稚ハ社員ニ入ルコトヲ得ス此結社ハ同一ノ目的ノ結社ト相連合スルコトヲ禁ス何トナレハ國內へ追々波及セシムルノ恐レアルハナリ社員ニ入レサル意ハ政府ニ抗拒スルコトヲ學ハセサルノ趣意ナリ
 公ケノ場所ニ集會スルニハ目的ノ政務ニ關スルト否トニ拘ハラズ四十八時間前ニ警察官ノ許可ヲ得ヘシ警察官ハ其集議スル事柄ノ公安ヲ害スルカ又ハ通行ヲ妨ルノ恐レアルハニ限り之ヲ禁スルコトヲ得

考フルニ(恐レアルノ文字ニ至テハ其人ノ恐レアルモノニシテ他人ヨリ見ルハ或ハ恐アラサルヤモ知り難シ故ニ今日發スル

法律ニハ大抵事實上ニ恐レアルモノ、如ク掲載セリ、多人數同時ニ往來ヲ爲ス、モ亦公ケノ場所ニ集會スルト同様ニ看做スヘシ併ナカラ婚姻葬祭又ハ宗旨ニ關シ行列シ又ハ學校ノ子弟ヲ多ク連レ行ク如キノ類ハ格別ナリトス

公ケノ場所ニ集會スルコトハ王宮又ハ議院開會ノ所ニ二里以内ノ地ニ於テハ之ヲ爲スコトヲ禁セリ 英國ハ毎ニ公ケノ場所ニ集會セリ英國ニ此法ヲ設クルモハ日々犯則者アラシ此ノ如キ法律ヲ設クルモノハ此時代ハ政府ニテ餘程集會ヲ恐ルレハナリ 以上ノ規則ニ背ク者ハ三百「マルク」以下及ヒ三箇月以下ノ禁獄ニ處スヘシ其他ノ細則ハ之ヲ畧ス又刑法第百二十八條第百二十九條ニモ集會結社ニ關スル罰アリ

第三十一條 如何ナル要件アレハ團結ノ權利法律上人ト看做ヲ交付スヘキ者ノ權利

シ又ハ交付セサルカハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

此趣意ハ一般ノ規則ヲ設ケ其規則ニ定メタル要件ニ從ヘハ別段ノ許可ナクシテ法律上人ト看做スヘキ者ノ權利ヲ得セシムルノ趣意ナリトス

此法律ハ今日マテ未タ發行セス今日ハ其都度許可ヲ得テ權利ヲ得ルナリ

第三十二條 凡テ普魯西人ハ歎願ヲ爲スノ權ヲ有セリ併ナカラ總名ニテ歎願ヲ爲スコトハ止タ官署及ヒ團結ヨリ爲スコトヲ得ルノミ

總名トハ伯林總靴屋中又ハ伯林大學生徒中ト云カ如シ其總名ニテハ歎願スルコトヲ得ス止タ一人ヤヤソ氏名ヲ記シテ爲スコトヲ得ルノミ併ナカラ太學校又ハ伯林郷トカ又ハ何官署トカノ名義ヲ

以テ爲スコヲ得團結トハ自治團結及ヒ會社等法律上人ト看做ス
ヘキ者ノ權利ヲ有スル者ハ皆是レナリ

第三十三條 書翰ノ秘密ハ之ヲ犯ス可カラス刑事ニ關スル搜索及ヒ
軍時ニ必要ナル制限ハ法律ニ因テ之ヲ定ムヘシ

書翰ノ秘密ハ何人タリトモ之ヲ犯ス可カラサル者トス之ヲ犯ス
ルハ其罰アリ

則刑法第二百九十九條ニ平人ノ罰アリ第三百五十四條ニ郵便局
ノ官吏ノ犯ス罰アリ第三百五十五條ニ電信局ノ官吏ノ犯ス罰ア
リ刑事ニ關スル搜索ハ第六條ニ記シタル如ク警察官ニテ搜索ス
レハ之ヲ封シテ裁判官ニ送付スルカ如シ戰時ニ於テノ制限ハ未
タ其規則アラサレモ戰時ニ於テハ大將自カラ之ヲ破拆スルコヲ

得ルハ勿論ナリ(憲法第六條ニ詳カナリ)

第三十四條 何人ヲ論セス普魯西人ハ徵兵ニ應スルノ義務アリ此義
務ノ範圍及ヒ種類ハ法律ヲ發シテ之ヲ定ムヘシ

第三十五條 兵ハ常備兵及ヒ後備兵ノ各部ヲ總括ス
戰時ニ於テハ國王ハ法律ニ從テ國民兵ヲ徵集スルコヲ得

第三十六條 内亂ヲ鎮制スル爲メ及ヒ法律ヲ實際ニ施行スルカ爲メ
兵力ヲ要スルコトハ止テ法律ニ定メタル場合ニ於テ其方法ニ從フカ
又ハ行政官ノ依頼アルキニ限り用フルコトヲ得ルノミ其依頼ナキニ
兵力ヲ用フルコトハ特別ニ法律ヲ發シテ之ヲ定ムヘシ

第三十七條 軍事裁判權ハ止テ刑事ニ限ルモノニシテ法律ヲ發シ之
ヲ定ムヘシ又タ軍事懲戒規則ハ別段ノ布告ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第三十四條ヨリ第三十七條マテヲ連續シテ説クヘシ兵役ノ事ハ
獨逸帝國ニ歸シ各連邦ニハ其權ナシ因テ獨逸國兵編制ヲ説明セ
ン

獨逸國ノ兵ノ編制ハ獨逸憲法第五十七條ヨリ第六十八條ニ在リ
該條ニ因レハ何人ニテモ獨逸人ハ徵兵ニ應スヘキ義務アリ代理
人ヲ出シテ其義務ヲ免カル、コヲ得ストアリ其詳細ナル編制ハ
千八百六十七年十一月九日ノ北連邦兵役規則ニ定メリ

凡ソ兵ハ陸軍海軍ヨリ成ル陸軍ハ常備兵ト後備兵ヨリ成リ
海軍ハ常備軍艦ト後備軍艦ヨリ成ル常備兵ト常備軍艦トハ常ニ
出兵ノ用意ヲ爲スモノニシテ戰時ニ出兵スヘキモノ、規模トナ
ル者ナリ第四條平時ニ常備兵ノ員數ヲ定ムルコトハ國家經濟上關係

甚大ナル者トス獨逸憲法第七十條ニ因レハ千八百七十一年マテ
ハ人口ノ百分ノ一ノ員數ニ定メタリ其以後ハ帝ヨリ法律ヲ發シ
其員數ヲ定ムルコト爲シタリ其後帝ハ時々法律ヲ發シテ常備兵
ノ員數ヲ増加セリ最後ノ法律ニ從ヘハ千八百八十八年マテハ四
十万余ノ常備兵ト定メタリ(千八百八十年五月六日常備兵定員
規則第一章第一條)

人員ヲ定ムルコトハ必ス法律ヲ以テ定ムヘキモノナレ其編制ニ
至テハ布告ヲ以テ定ムルモ可ナリト雖モ獨逸國ニ於テハ千八百
七十四年五月二日ニ編制規則ヲ發シテ之ヲ定メタリ此規則ノ編
制法ハ區分法ニ基キテ編制シタルモノニシテ其各區部ノ員數ハ
平時ニハ其實數ナクシテ戰時ニ其數ニ充タシムルモノトス其各

區部ノ根本ト爲ルモノハ大隊(千人)ナリ則チ步兵隊ハ五百三大隊アリバタイロン歩砲兵隊ハ三十一大隊アリバタイロン工兵隊ハ十九大隊アリビローニエ輜重隊ハ十八大隊アリレグ

騎兵隊ハ四百六十五大隊アリ野戰騎上砲兵隊ハ三百四十大隊アリ大隊ノ數箇合ヒタル者(通常三大隊)ヲ(レギメント)人三千ト云フ(レギメント)ノ數箇合ヒタル者(通常ハ二箇)ヲ(ブリガド)六千ト云フ(ブリガド)ノ數箇合ヒタル者(通常二箇)ヲ(デビジョン)一萬二千人ト云フ(デビジョン)ノ數箇合ヒタル者(通常ハ二ヨリ三トス)ヲ(アルメーコール)ト云フ獨逸全國ニハ十八(アルメーコール)アリ各區部ニ士官アリ各大隊ノ下ニ(コンパニ)戰時二百アリ其長ニハ(ハツプトマン)或ハ(リツトマイステル)五十人

一人(エールステリユーテナント)一人(セコンドリユテナント)二人又ハ三人下士官數人アリ
大隊ノ長ニハ(マヨール)一人(レギメント)ノ長ニハ(ヲ、ベルスト)一人(マヨール、ヲ、ベルスト)リユーテナント、ヲ、ベルスト、此三官ヲスタープスヲヒチールト云フ
(ブリガド)ノ長ニハ(グザラールマヨール)一人(シビヂョン)ノ長ニハ(グザラールリユーテナント)一人(アルメーコール)ノ長ニハ(コンマンダーレンデルグザラール)一人アリ
各アルメーコール(ガルデコールヲ除ク)ハ一定ノ管轄地ヲ有ス通常ハ一州ヲ一アルメーコールノ管轄トス又アルメーコールノ管轄ヲ逐次ニ分割シテ終ニ(バタイヨン、コンパニ)ノ管轄區

ニ至ル此二區ハ徵兵ノ義務アル者ヲ徵集監督シ及ヒ後備兵編制ノ爲メニ必要ナル者ナリ其必要ナルコトノ詳細ハ後條ニ於テ説クヘシ

後備兵ハ常備兵ノ内ニ繰込ム可カラス故ニ特別ニ區分法ヲ設

ケリ併ナカラ通常其制ハ步兵ノ大隊ノミニ設クルモノニシテ後

備兵ノ砲兵大隊及ヒ騎馬隊ハ實際ハ常備兵ニ繰込メリ又後備兵

大隊「バタイヨン」ノ長ニ「ハスター」ブスヲヒチ「ル」一人ト「アジュダ

ント」二人トアリ此長官ハ休暇ヲ得テ「バタイヨン」區外ニ居ル者

ヲ監督シ常ニ後備兵出兵ノ用意ヲ爲サシメ出陣ノ時其命令ヲ下

スコトヲ掌レリ普魯西國ノミニテモ後備兵大隊區ハ二百九アリ其

區ノ大サハ通常郡ト同一ナリ

國民兵ハ平時ニ編制スルモノニ非ス敵兵國內ニ攻入ルカ又ハ國

境ヲ侵スル常備兵後備兵ヲ以テ之ヲ防キ能ハサルトニ限り召集

スルヲ得ルナリ其時ニハ如何ナル者ニテモ十七歳ヨリ四十二歳

マテノ者ニシテ常備兵又ハ後備兵ニ屬セサル者ノ外ハ其義務ヲ

免カル、コトヲ得ス國民兵ノ編制ニ付テハ別ニ法律ナク其時ノ將

帥ニ其權ヲ任セリ止タ銃丸ノ達スル距離ニテ能ク見分ケノ出來

ル一定ノ徽章ヲ着ケ且軍事懲戒法ニ從ハシムル者トス是レ則万

國公法ノ戰時ノ法ニ基テ設ケタルモノナリ

城寨ヲ設クル權ハ獨逸帝ノ全權ニ歸スルモノニシテ各連邦政府

ノ許可ヲ得ルコトヲ要セス城寨ヲ設クルニ付キ必用ナル土地ハ所

有者ニ其至當ナル償金ヲ給シテ其土地ヲ買上ケ又其近傍ノ周圍

ハ所有者ニ止タ相當ノ償却金ヲ給シテ之ニ家屋ヲ建築セシメス
仍ホ其土地ノ所有ハ其者ニ屬スヘシ（千八百七十一年十二月廿一日ニ發シタル城
 寨周圍ノ土地所有權ヲ制限スル獨逸帝國法律ヲ見ルヘシ）其土
 地ヲ買上ケ又ハ家屋ヲ建築スルコトヲ禁スルニ付キ協議ヲ遂ケサ
 ルトハ通常裁判所ニ於テ之ヲ判決スヘシ
 海軍ノ事ニ付テハ獨逸憲法ニ二三ヶ條其事ヲ定メタルノミ其他
 海軍ニ關スル法律ハ甚タ少ナシ何トナレハ獨逸國ハ現今漸ク海
 軍ニ着手シ始ムレハナリ
 海軍ヲ整頓スル權ハ獨逸帝ニ歸スヘシ海岸ニ住居スル人民ハ陸
 軍徵兵ノ如キ海軍ニ加ハルノ義務アリ則常備兵ニ加ルヘキ義務
 ニ當ルモノハ常備軍艦ニ加ハルヘキ義務ナリ後備兵ニ加ハルヘ

キ義務ニ當ルモノハ後備軍艦ニ加ハルヘキ義務ナリ然レモ後備
 軍艦ニ加ハル者ノ後備兵ノ如キ特別ノ區分法ヲ設ケスシテ常備
 軍艦ニ繰込ヘキモノナリ
 海軍ノ中央タル官署ハ則チ海軍省ナリ海軍卿ハ海軍行政ノ長ト
 海軍軍艦ノ惣督官長タルヘシ（トドミツリグイト）（惣督官長トハ帝ノ名代ノ名義ヲ
 以テ其官ニ居ル者ナレハ何時ナリトモ帝自カラ總督官ト爲ルコ
 トヲ得ルハ勿論ナリトス）
 海軍ハ之ヲ分テ東海鎮守府及北海鎮守府トス東海鎮守府ハ「キ
ライストヴェーゲンガチラン イール」ニ在リ則海ノ城寨ナリ北海鎮守府ハ「ウイ
イルベレーンガチラン イール」ニ在リ是モ亦海ノ城寨ナリ
 陸軍行政ノ中央ハ則チ普國ノ陸軍省ナリ（獨逸全國ニハ未タ陸

軍省アラサレハ普國ノ陸軍省ニ於テ當分之ヲ掌レリ

陸軍省ハ之ヲ三部ニ分テリ一、本局、セントラルブureau卿ノ事務ヲ掌ル所ナリ二、

參謀局、兵ノ編制及ヒ軍令ヲ掌ル所ナリ之ヲ三課ニ分テリ①

鎮臺課②大砲課③工作課④陸軍會計局出

納ヲ掌ル所ナリ之ヲ四課ニ分テリ

①會計豫算及ヒ出納課②兵糧課③軍服課④人夫病院課

海軍行政ニ在テハ海軍省ニ於テ之ヲ掌ル

陸軍會計ノ事ニ付テハ鎮臺管轄區ニハ鎮臺會計官一人アリテ其

區内ノ會計ヲ掌ル聯隊管轄區ニハ聯隊會計官一人アリテ其區内

ノ會計ヲ掌ル會計官ハ純粹ノ行政官ナリ又陸軍省ノ内ニ別段ノ衛

生局アリテ其長ニハ軍醫總監一人アリテ其部ノ事務ヲ監督

セリ鎮臺管轄區ニハ軍醫監一人アリ聯隊管轄區ニハ一等軍醫正

一人アリ中隊管轄區ニハ二等軍醫正一人アリ小隊管轄區ニハ軍

醫一人ト軍醫副一人アリ

又城塞屯所ノ在ル所ニシテ半大隊以上ノ兵士ノ居ル所ニハ病院

ヲ設ケ別ニ其行政ヲ爲スヘシ其行政ノ醫師ニ關スル事件ハ陸軍

省衛生局ニテ總轄シ會計ノ事件ハ鎮臺ノ會計官ニテ管轄セリ

獨逸海軍ニハ別段ノ衛生局アリ

又陸軍裁判權ハ止々刑事ニ限ルモノニシテ軍人ノ犯罪ハ盡ク之

ヲ裁判スヘシ其裁判權ハ帝ヨリ授與シタルモノニシテ鎮臺司令

官ヨリ以下中隊長ニ至ルマテ有スルナリ其長官ニハ必ス陸軍裁

判官一人ヲ附クヘシ其他裁判官組立法ハ犯人ノ位ト所犯ノ大小

トニ因リ臨時之ヲ組立テ各異ナルアリ其陸軍裁判官(必ス通常裁判官ノ性質ヲ有スル者ナリ)ノ長官タルモノハ鎮臺裁判官ニシテ其所屬ノ裁判官ヲ監督シ管轄内ノ裁判ニ付キ其故障申立ヲ裁判スヘシ海軍裁判權モ亦陸軍裁判ト等シク軍艦長ニ之ヲ授與セリ鎮守府長ニハ別ニ鎮守府裁判官ヲ附スヘシ此裁判官ハ獨逸國ニハ別ニ其設ケナシ普國ノ鎮臺裁判官ニテ之ヲ掌レリ但軍艦長ニハ裁判官ヲ附セス其他裁判官組立法ハ陸軍ト同シ軍事ヲ教授スル爲メニハ種々ノ學校アリ又政府ニハ造船所三箇アリ(ダンチヒ)(キール)(ヴィルレムスハーフェン)是レナリ

徴兵ノ義務ハ十二年間續クモノニシテ始メ三年ハ常備兵ニ入り

其後四年ハ豫備兵ニ入り其後五年ハ後備兵ニ入ルヘキ者トス豫備兵ハ三年間常備兵ニ入りタル後戰時ニ於テ各部ノ不足ヲ充タシムルカ爲メ準備スルモノナリ平時ハ止タ四年間ニ二度練兵ノ爲メ出ルノミナリ其餘ハ自家ノ本業ニ就クヘシ一度ノ期限ハ大抵八週間トス

後備兵モ亦五年間ニ二度練兵ノ爲メ出ツヘシ一度ノ期限ハ大抵八日ヨリ十四日間トス

豫備兵ト後備兵トハ小大隊長ノ監督ヲ受クヘシ豫備兵八年ニ二度一定ノ期日ニ集會所ニ自ヲ出頭シテ其住所ニ在ルコトヲ示スヘシ後備兵八年ニ一度其集會所ニ出頭スヘシ

他國ニ旅行スルハ獨逸國內ナレハ旅行先キノ集會所ニ出頭スル

モ妨ケナシ外國ニ旅行スルキハ必ス大隊長ヨリ許可狀ヲ受クヘシ」
 始メ常備兵ヲ三年勤ムル代リニ一年間ヲ勤メント欲スル者ハ中
 學校ノ免許狀ヲ有スルカ又ハ中學校試験ニ適應スル別段ノ試験
 免狀ヲ有セサレハ之ヲ許サス但是等ノ者ハ自カラ衣服飲食料ヲ
 賄フヘシ

獨逸刑法第四百十條ヨリ第四百十三條マテニ徴兵ノ義務ヲ免カ
 ル、者ノ爲メ其罰アリ且其他別段ノ罰則アリ第四百十條何人タ
 リトモ常備兵又ハ常備軍艦ニ入ルヘキ義務ヲ免カレン爲メ許可
 ナクシテ獨逸ヲ去ルカ又ハ徴兵適齡後獨逸國外ニ滞在スル者ハ
 五十マルク以上千マルク以下ノ罰金又ハ一月以上一年以下ノ禁
 獄ニ處スヘシ

犯人ノ財産ハ裁判官ノ見込ニ從ヒ最高額ノ罰金及ヒ裁判費用ニ
 充ツヘキモノヲ取押フルヲ得

第四百十一條何人タリトモ獨逸人ヲ外國ノ兵役ニ傭入ル、カ又
 ハ傭入レ人ニ交付スルカ又ハ故サヲニ軍人ヲ逃亡セシムルカ又
 ハ逃亡ヲ教唆スル者ハ三月以上三年以下ノ禁獄ニ處スヘシ
 其未遂犯罪ハ本刑ニ處スヘシ

第四百十二條何人タリトモ故サヲニ身体ヲ毀傷スルカ若クハ他
 ノ方法ヲ以テ徴兵ニ適セサラシムルカ又ハ他人ヲシテ之ヲ爲サ
 シムル者ハ一年以上ノ禁獄ニ處シ公權剝奪ヲ附加スルヲ得
 依頼ヲ受ケテ他人ヲ徴兵ニ適セサラシムル者モ前項ノ刑ニ處ス
 ヘシ

第四百十三條 何人タリトモ徴兵義務ノ全部又ハ一部ヲ免カレン
爲メ詐術ヲ用フル者ハ禁獄ニ處シ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得
共犯人モ亦同一ノ刑ニ處セラルヘシ

第三十八條 軍人ハ職務内外ニ於テ評議ヲ爲スコトヲ得ス又命令ヲ受
クルニ非サレハ集會ヲ爲スコトヲ得ス後備兵ノ集會及ヒ結社ハ其目
的タル軍制及命令ニ關スレハ召集セサル時ト雖モ之ヲ禁止スヘシ
本條ハ「スパニヤ」ノ如キ軍人ノ政事上ニ勢力ヲ及ホスヘキコトナ
キ爲メニ設ケタルモノナリ後備兵ハ常人ノ如ク集會ヲ爲スコト得
レモ軍事ニ關スル事件ハ軍懲戒ニ屬スル者ナレハ召集セサルモ
ト雖モ軍事ノコトヲ評議スルコトヲ得ス

第三十九條 第五條第六條第二十九條第三十條及ヒ第三十二條ノ規

則ハ止タ軍事ニ關スル法律及ヒ懲戒法ニ抵觸セサルモニ限り之ヲ
軍人ニ適用スヘシ

軍事ニ關スル法律懲戒法ニ抵觸セサル以上ハ第五條第六條等ノ
規則ヲ軍人ニ適用スヘシト記載スレモ成ルヘク軍人ハ政事上ノ
事ニ關係セサル様今日ハ注意セリ故ニ現今ノ獨逸又ハ普國ノ法
律ニ於テモ常備兵ニハ選舉スルノ權アレモ之ヲ行フコトヲ停止セ
ルカ如シ然レモ選舉セラル、ノ權ハ之ヲ停止セス例ヘハ「ゲ子ラ
ール、モルトケ」カ獨逸國議員ニ選ハル、カ如シ

第四十條 封建ノ制ヲ設クルコトヲ禁ス已ニ設立シタル封建ニ基ク嫡
子相續ハ法律ヲ發シテ之ヲ解クヘシ

封建トハ土地使用權ヲ與ヘテ其代リニ戰時ニ服從セシムルコトヲ

云フ其所有權ハ其所有者ニ存スル者ナリ其土地ハ第一番ニ生タル嫡子ニ相續スルモノトス

所有權トハ其所有物ヲ隨意ニ所分スルコトヲ云フ然ルニ獨逸國ニ於テハ古ヘハ土地ニ限リテ其所有權ニ制限ヲ爲シタリ近來ハ土地ノ所有權ヲ制限スルコトヲ全ク廢止セリ則封建ヲ廢シ或ハ土地所有者ノ力役ヲ廢シ或ハ是迄禁セシ土地ヲ分割スルコトヲ許シタルカ如シ獨逸ニ於テハ土地所有者ヨリ力役ヲ爲スヘキ義務等ヲ土地附屬ノ義務トス今日ハ之ヲ廢シ力役ノ代リニ金ヲ以テ其義務ヲ解ケリ

第四十一條 國王直接封建又ハ外國ニアル封建ハ前條ノ規則ヲ適用ス可カラス

「トローンレーン」トハ國王ヨリ直チニ義務ヲ負ハシメテ貸シ與ヘタル土地ヲ云フナリ現今ハ止タ一二箇所存スルノミ
外國ノ封建トハ内國人カ外國ニテ所有スル土地ノ義務ヲ負ハシメテ貸與フルコトヲ云フ

第四十二條 左ニ掲クル者ハ償金ヲ出スコナクシテ別段ニ發シタル法律ニ從ヒ之ヲ廢止シタル者トス

- 一 土地所有ト結付タル裁判權ヲ行ヒ又ハ裁判權ヲ他人ニ依頼スル權及ヒ其權利アルカ爲メ通常裁判ヲ免カル、ニキヒヤクコト及ヒ租稅ヲ取立ル權利
- 二 裁判權及ヒ防護權若クハ奴僕ノ關係ヨリ生シ及ヒ租稅營業規則ヨリ生シタル義務

以上ノ權利ヲ廢シタルカ爲メ從來ノ權利者ヨリ盡スヘキ義務

土地所有者裁判權トハ其裁判權カ土地ニ附屬スル者ナレハ其土地ヲ所有スルキハ何人タリトモ其裁判權ヲ得タリ其裁判權ハ自分ニテ之ヲ爲スモ又ハ裁判官ヲ命シ之ヲ爲サシムルモ隨意ナルモノトス則自分ニ裁判權カ屬スレハ自ラ裁判所ニ出テ裁判ヲ受クルコナシ是レ「エキセムチヨン」ナリ

又其所有者ハ租稅ヲ取立ルノ權アリ

防護權ノ義務トハ百姓ヨリ土地所有者ニ依頼シテ其身ヲ防衛セシムルカ爲メ之ニ納金スヘキ義務アルコト云フ

奴僕トハ其土地ニ附屬シテ代々其土地ヲ耕作スヘキ義務ヲ云フ故ニ所有者ヨリ土地ヲ他人ニ讓與スレハ其奴僕モ亦土地ト共ニ

讓與セラル、者トス

第四普魯西國憲法二

第三篇 國王

第四十三條 國王ノ身体ハ犯ス可カラス

國王ハ國家ノ全權ヲ握リタル者ナレハ何人ト雖モ國王ノ上ニ立ツ者ナシ故ニ國王ハ政事ニ關スル責任ヲ負ハサルノミナラス刑事ニ關スル責任ニモ亦負フコナシ然レモ財產上ニ於テハ通常ノ人ト同ク民事上ノ責任ヲ負ヒ民事裁判ヲ受クヘキモノナリ又國王ハ刑法上別段ノ防護ヲ受ケリ則チ王ノ身体生命等ヲ害シタル^キハ謀反^キ大逆^キノ罪ト爲シ王ノ名譽ヲ害シタル^キハ之ヲ不敬ノ罪^ト爲シテ罰スルノ類

第四十四條 國王ノ爲シタルコトハ卿其責任ヲ負フ可シ然レモ王ノ爲

ス可キ政務ハ其責任ヲ負フヘキ卿ノ手署ナケレハ其効ナカルヘ
シ
王ハ國家ノ全權ヲ握リ最上ノ地ニ位スル者ナレハ其責任ハ自カ
ヲ負ハサレモ憲法ニ定メタル人ヲ用ヒ責任ヲ負ハシムヘシ例ヘ
ハ法律ヲ發シ又ハ官吏ヲ任命スルキニハ少クモ卿一人ヲシテ手
署セシメ其責任ヲ負ハシムルカ如シ然レモ是等ハ政事ニ關スル
コニシテ若シ財産上ノ事ニ至テハ國王ト雖モ自分ニテ責任ヲ負
フコハ勿論ナリ
若シ卿ノ手署ナクシテ責任ヲ負フヘキ者ナキモハ假令國王ノ爲
シタル政務ト雖モ之ヲ遵奉スルニ及ハス

第四十五條 國王ハ施政ヲ獨斷スルノ權ヲ有ス又卿ヲ任免シ法律ヲ

頒布セシメ或ハ其法律ヲ施行スルニ必要ナル布告ヲ發スルノ權ア

リ

佛國ノ「モンテスキュー」カ英國ノ政体ニ因テ國權ヲ三箇立法行
政裁判ニ分タサレハ人民ノ自由ハ成立サルノ說ヲ立タリ其說ハ
第一ニ佛蘭西ノ憲法ニ移リ夫ヨリ白耳義ノ憲法ニ移レリ獨逸國
ニ於テモ亦其言語ニ於テハ白耳義ノ憲法ヨリ移リ來レリ併ナカ
ラ「モンテスキュー」ノ說ハ今日ニ於テハ甚タ誤レリトセリ何トナ
レハ國家ハ合一ノ体ニシテ其權モ亦自カラ合一ナルヘシ則チ王
國ニ在テハ其權ノ合集スル所ハ國王ナリ然レモ國王カ其國權ヲ
施スニ當テハ自カラ其制限ヲ受クルコアリ則立憲政体ニ在テハ
國王ノ法律ヲ設クルニハ必ス兩院ノ允許ヲ受ク可ク政ヲ施スニ

ハ必ス卿ノ手署ヲ要スヘク裁判ヲ爲スニハ必ス獨立セル裁判官
ヲシテ爲サシムヘシ又國王ハ諸省ノ卿ノ獨斷ヲ以テ任免スルノ
權アリ英國ノ如キ實際議院ノ說ニ適スル人ヲ用フルカ如キナ
シ又法律ヲ頒布スル命令ハ兩院ノ許可ヲ要セス且其法律ヲ實際
ニ施スニ必要ナル布告モ亦兩院ノ許可ヲ要セス是レ國王ハ施政
ノ全權ヲ有スル所以ナリ

第四十六條 國王ハ兵ヲ指揮スル權アリ

國王ハ戰時又ハ平時ニ於テ司令將官トシテ兵ノ指揮ヲ獨斷シテ
爲スニハ卿ノ手署ヲ要セスト雖モ軍事ニ關スル行政ニ至テハ陸
軍卿ノ手署ヲ要スヘシ

獨逸憲法第六十三條 獨逸國ノ陸軍ハ一定ノ兵ニシテ戰時及ヒ

平時ニ於テ皇帝ノ指揮ヲ受クヘシ

聯隊ニハ獨逸兵ノ番號ヲ着クヘシ軍服ニハ普國兵ノ服色及ヒ裁
縫法ヲ用フヘシ徽章(帽子ノ類)ハ各連邦國王ニテ之ヲ定ムヘシ
皇帝ハ獨逸兵ノ軍隊ノ員數ヲ現在セシメ其用意ヲ爲サシメ其編
制、兵器、指揮ヲ同一ナラシメ兵卒ヲ演習セシメ及ヒ士官ヲ教育
セシムルノ權利義務ヲ有ス之レカ爲メ何時タリトモ連邦ノ兵制
ヲ監督シ不十分ナル所アレハ之ヲ改正スル權アリ

皇帝ハ獨逸兵ノ常備員數編制及ヒ後備兵ノ編制ヲ定ムル權アリ
又獨逸國內ニ屯所ヲ定メ及ヒ出兵ヲ命スル權アリ

獨逸兵ノ行政、兵器、飲食ヲ同一ナラシメンカ爲メ普國ニ於テ之
カ爲メ發スル命令ヲ第八條第一ニ定メタル陸軍城塞委員ヲシテ

連邦ノ指令官ニ通知セシメ且之ヲ遵奉セシムヘシ

第六十四條獨逸兵ハ必ラス皇帝ノ命令ニ從フヘシ其義務ハ旗下ノ宣誓ニ因テ生スルモノトス

連邦ノ司令官及ヒ數連邦ノ兵ヲ指揮スル將官城寨司令官ハ皇帝ヨリ之ヲ任スヘシ帝ヨリ任シタル士官ハ旗下ニ於テ宣誓ヲ爲スヘシ連邦内ノ將官及ヒ相當ノ士官ハ皇帝ノ許可ヲ以テ之ヲ任スヘシ

帝ハ連邦中ノ士官ヨリ獨逸兵ノ士官ヲ命シ且之ヲ昇進セシメテ命スルコトヲ得(獨逸兵トハ普國兵又ハ他ノ連邦内ノ兵ヲ云フ)

第四十七條 國王ハ武官並ニ文官ヲ任命ス但法律ヲ以テ別ニ定メアル者ハ此限ニ在ラス

國王ハ武官文官ヲ命スルノ權ヲ有ス其權ハ國王一人ニテ握リタルモノニシテ議院ノ與ル所ニ非スト雖モ何人ナリトモ隨意ニ選任スルコトヲ得ス必ス法律ニ定メタル性質ヲ有スル者ニ非サレハ之ヲ任スルコトヲ得ス(第四條)又卿ノ手署ナケレハ其任命ノ効ナキモノトス故ニ法律ニ定ムル性質ト卿ノ手署トノ制限ヲ受クルノミ(法律ヲ以テ別ニ定ムルトアレモ未タ其法ヲ定メス)獨逸憲法第十八條 帝ハ獨逸ノ官吏ヲ任シ誓約ヲ爲サシメ且場合ニ於テハ其職ヲ免スルコトヲ命スヘシ

連邦官吏ヨリ獨逸ノ官吏ト爲リタル者ハ其官ニ就グ前ニ法律ニ別ニ定メナケレハ連邦ニ於テ職務上有シタル權ヲ獨逸國ニ對シ尙之ヲ有スヘシ

第四十八條 國王ハ開戰及ヒ和睦ヲ爲シ又ハ他國ト條約ヲ結フノ權
ヲ有ス其條約ハ通商ノ事ニ關スルカ又ハ國家人民ニ義務ヲ負ハシ
ムル者ナレハ議院ノ允許ヲ得サレハ其効ナシ

國王ハ外國ニ對シテハ國家ヲ代理スルノ任アリ故ニ宣戰講和ハ
議院ノ允許ヲ得スシテ獨自ラ之ヲ決スルコトヲ得又公使ヲ發遣請
待スルノ權アリ然レモ他國ト結フ所ノ條約ニシテ人民ニ義務ヲ
負ハシムルハ必ス議院ノ允許ヲ得ヘシ

又通商條約ノ如キモ人民一般ニ關係ヲ及ホスモノナレハ議院ノ
允許ヲ要スヘキモノナリ

獨逸憲法第十一條 獨逸國ノ長ハ普魯西國王ニシテ獨逸帝ノ名
義ヲ有スヘシ

帝ハ萬國交際ニ於テ獨逸國ヲ代理シ獨逸國ノ名義ヲ以テ宣戰講
和ヲ爲シ外國ト條約ヲ結ヒ公使ヲ派遣シ及ヒ之ヲ招待スヘシ宣
戰ニハ連邦委員局ノ承諾ヲ要ス但國境又ハ海岸ニ外寇ヲ受クル
ハ此限ニ在ラス

又條約ノ事件第四章ニ掲ケタル法律部内ニ屬スルモノハ連邦委
員局ノ承諾ヲ經テ之ヲ結ヒ下院ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其効ナ
シ

第四十九條 國王ハ特赦減等赦ヲ爲スノ權アリ

國王ノ爲シタル政務ニ付キ罰ヲ受ケタル諸省ノ卿ニ對シテハ止タ
告訴シタル議員ノ申立ニ因テノミ其權ヲ行フコトヲ得

國王ハ已ニ始メタル審問ニ對シテハ止タ法律ニ從テ之ヲ廢棄スル

ヲ得

特赦ヲ爲スヘキ場合ハ三箇アリ一ハ法律ノ腐敗（ブルクナリタル）シテ當世ニ適セサルカ又ハ法律ノ校合ノ不十分ナルカ又ハ裁判官ノ裁判ニ誤リアルキニハ國家ノ幸福ニ係ルハ例ヘハ戰爭ノ場合ニ國事犯ノ者ヲ放テ兵役ニ使フノ類三犯人ノ改良シタルニ因リ刑ノ一部ヲ減等スヘキ場合其權ハ國王ノ獨有ニシテ議院ノ允許ヲ得ヘキ者ニ非ス然レモ卿ノ手署ヲ要ス或ハ又輕犯ニ至テハ司法卿ニ其權ヲ托スルコアリ例ヘハ輕キ罰金ノ如キモノナリ

卿ノ責任ニ係ル犯罪ニ至テハ國王隨意ニ之ヲ特赦スルコヲ得ス必ス卿ヲ告訴シタル議員ヨリ其赦典ヲ申立タル上ニテ之ヲ行フ

ヘシ又赦典ハ已ニ判決ヲ受ケタル者ニ限り之ヲ行フコヲ得未タ判決ヲ受ケサル者ヲ法律ノ罰ヨリ免カレシムルコヲ得ス已ニ始メタル審問ノ手續ヲ廢棄スルコハ必ス法律ニ從テ之ヲ爲スヘシ其他大赦アリ之レハ一般ニ行フ者ニシテ亦タ國王ノ特權ナリト雖モ已ニ審問ニ着手シタル者ハ亦法律ニ從フ可シ

第五十條 國王ハ賞牌其他特權ト附着セサル貴號ヲ附與スルノ權アリ

古ヘハ貴族トナレハ特權ヲ受ケタリ例ヘハ稅ヲ拂フコナキノ類

國王ハ法律ニ從テ寶貨ヲ造ル權アリ

國王ハ賞牌ヲ與ヘ又ハ平民ヲ貴族ニ陞スノ權アリ故ニ外國ノ賞牌ヲ佩ヒントスル者ハ必ス國王ノ許可ナケレハ内國ニ於テ之ヲ佩用スルコヲ得ス

國王ハ隨意ニ通貨ヲ作ルコヲ得ス例ヘハ從前金ヲ本位トスルヲ
 俄カニ變シテ銀ヲ本位トスルコヲ得ス必ス通貨ニ付キ定メタル
 法律ニ從テ之ヲ造ルヘシ當時普國ニ於テハ獨逸ノ通貨規則アレ
 ハ國王ハ之ニ從テ作ルナリ

第五十一條 國王ハ議員ヲ召集シ且議院ヲ閉ツルノ權アリ又國王ハ
 兩院同時又ハ一院ノミヲ解散スルコヲ得併ナカラ此場合ニ於テ
 議員ヲ解散シタル後六十日內ニ再ヒ開院スヘシ
 國王ハ都テノ國權ヲ握リシ者ナレハ議院ヲ開閉スルコヲ得議員
 ハ國王ノ召集ナクシテハ隨意ニ集會スルコヲ得ス又下院(兩院
 同時トアルハ今日ノ選舉法ニ從ヘハ止タ下院ノミニ用フヘキモ
 ノニシテ上院ノ選舉法ハ其本條ニ就テ詳カニ解クヘシ)ヲ解散

スル權アリ解散トハ其選舉ノ効ヲ失ハシムルヲ云フ故ニ解散ヲ
 命シタル日ハ即日ヨリ議員ノ性質ヲ失フヘシ併カラ國王ハ解散
 セシメタル後六十日ノ間ニ新議員ヲ召集スヘキ義務アリ抑解散
 ノ政事上ニ於ケル効ハ政府ト議員トノ論相合ハサル日其裁判ヲ
 人民ニ仰クヘキ趣意ナルモノナリ是ヲ以テ一タヒ政府ト議員ト
 說ノ合ハサル日下院ヲ解散シタル日再ヒ人民ヨリ同一ノ議員ヲ
 選舉シタル日ハ是レ則人民カ政府ノ說ヲ非トシタル兆候ナリ然
 ル日ハ政府ハ議員ニ讓テ退カサルヘカラス普國ニ於テハ五十一
 年ヨリ六十六年マテノ間ニ屢々此例アリキ
 上院ノ解散ハ今日ハ之ヲ爲スコヲ得ス何トナレハ上院ハ選舉ニ
 因テ成立ツ者ニ非サレハナリ

第五十二條 國王ハ議院ヲ延會スルコトヲ得其延會ハ議院ノ承諾アルニ非サレハ三十日ノ期限ヲ越ユルコトヲ得ス且同一ノ開設期限中再ヒ延會ヲ爲スコトヲ得ス

他ノ事故アリテ國王ヨリ延會ヲ命シタルキハ議員ハ其住居ニ歸リ再ヒ召集セラル、キ復タ出頭スヘキ者トス併ナカラ國王ノ屢々此權ヲ行ヒ遂ニ議院ヲ開カサラシムルコトナカラシメンカ爲メ三十日ノ期限ヲ設ケ其時間ノミ延會セシムルコトヲ得且同一ノ開設時間ニ再ヒ延會スルコトヲ禁シタリ

國權相續ノ緒言

國權相續ニ付テハ二箇アリ一ハ選舉ニ因リ之ヲ「ワールモナルヒ」ト云フ一ハ相續王國ナリ之ヲ「エルブモナルヒ」ト云フ其相續ハ或ル

選舉 國王

血統ニ限り法律ニ定メタル順序ヲ以テ相續スルナリ相續王國ノ名ハ至當ナラス何トナレハ民法上ノ相續法ヲ之ニ適用ス可カラス元來即位ハ民法上ノ相續ニ非ス是ハ王ノ義務ニ因テ相續ス可キ者ナリ故ニ民法上ノ相續ノ如ク死シタル王カ其子ヲ相續セシムルニ非ス其子自ラ其位ニ就クヘキノ義務アリ止タ民法上ノ相續ニ似タル所ハ法律ニ定メタル人カ相續ヲ爲スノ形容ノミナリ又民法相續ニ異ナル所ハ相續シタル所ノ國權ハ之ヲ賣拂フコトヲ得ス又之ヲ分配スルコトヲ得ス又其遺囑ヲ爲スコトヲ得サルナリ

此憲法ヲ發スル以前ハ皇家ノ血統法ニ因テ相續ヲ定メリ然レモ憲法發行ノ後ハ皇家血統法ヲ憲法ニ掲載スレハ將來ハ皇家血統法ヲ以テハ其相續法ヲ變スルコトヲ得ス必ス法律ヲ以テ之ヲ變スヘシ又茲ニ注

目スヘキコトハ相續ト相續ノ順序是レナリ相續權トハ其血統者カ自ラ有スル相續ノ權利ヲ云フナリ相續ノ順序トハ現場ニ臨ンテ相續權ヲ有スル者ノ内何人カ先ツ相續スヘキヤノ順序ヲ云フナリ相續權ノ要件ハ

第一最初王位ニ即キタル者ノ下系ナル嫡子(養子ヲ除ク)ニシテ男子ヨリ分レタル男子是レナリ之ヲ男子ニ因テ分レタル男子ノ血統相續ト云フ此相續ハ「フランケン」種ノ法律ヨリ來ル者ニシテ普國ニ於テモ此相續法ヲ適用シタリ英國ノ相續法ニ從ヘハ女子ニ因テ分カレタル男子モ亦相續スルコトヲ得止タ兄弟姉妹ノアル所ハ男ヲ先ニスルノミ然レモ普國ニ於テハ男子ニ因テ分カレタル男子ノアラサル所ト雖モ直チニ女子ニ因テ分カレタル男子カ

相續スルコトヲ得ス親男男此ノ如クニ至ラス此場合ニハ別ニ法律ヲ發シテ定ムヘシ

第二實子トハ必ス婚姻中ニ誕生シタル者ニ限ルヘシ止タ現ニ位ニ即クヘキ者ノミナラハ最初王位ニ即キタル者ニ至ルマテ其中間ノ人カ盡ク婚姻中ニ生レタル者ニ限ルヘシ之ヲ「ヒリヤチ」ヲン「スプローペ」ト云フ私生ノ子ハ如何ナル場合ト雖モ決シテ相續ノ權ヲ得ルモノニ非ス

第三婚姻ハ皇家血統法ニ從テ兩親ノ許可ヲ要スルノミナラス當時王位ニ在ル者ノ承諾アルコトヲ要ス例ヘハ皇太子ノ世子カ婚姻ヲ爲スニハ皇太子ノ承諾ヲ要スルノミナラス皇帝ノ承諾アルコトヲ要スルカ如シ若シ當時王位ニアル者ノ承諾ヲ得スシテ婚姻ヲ爲

シタルハ其婦ハ其夫ノ位ヲ得ルコ能ハサルノミナラス其間ニ
誕生シタル子ハ王位ニ即クノ權ヲ有セス

第四又其婚姻ハ同等ノ身分ヨリ爲スヘシ殊ニ男子ハ獨逸國ノ一國

ノ君主タル血族ナルカ又ハ千八百六年ヨリ十五年ノ間ニ君主ノ

位ヲ失ヒタル者ノ血族ト婚姻スルニ非サレハ其間ノ誕生ノ子ハ

王位ニ即クノ權ヲ有セス中古ハ貴族ニシテ其同等ニ非サル身分

ノ者ト婚姻シタルハ之ヲ「ミスハイラート」ト云ヘリ今日ニ至

テハ其稱ハ殆ト廢シタレ止タ一國ノ君主タル者ノ婚姻間ニハ

仍ホ存スルノミ

第五最初王位ニ即キタル者ノ男子ノ内年長ノ者ヨリ王位ヲ繼キ又

其子ノ年長ノ者カ王位ヲ繼クヘク逐次ニ年長ヨリ年長ニ傳ヘ年

少ノ血統ニ及ハス之ヲ男子ニ因テ分カレタル長男ノ血統相續ト

云フ

若シ曾祖父ノ王位在世中祖父父ノ死シタルカ爲メ曾孫カ直チ

ニ曾祖父ヲ繼クハ之ヲ「レブレゼンタチランスレヒト」ト云フ

第五十三條 王位ハ皇家血統法ニ定ムル如ク男子ヨリ分カレタル長

男ノ血統相續法ニ從ヒ皇家ノ男子ニテ相續スヘキモノナリ

第五十四條 國王ハ滿十八歳ヲ以テ丁年トス

國王ハ兩院議員ヲ集會シタル席ニ於テ王國ノ憲法ヲ遵奉スヘキコ
及ヒ其憲法ト法律ニ從テ施政ヲ爲スヘキコヲ誓約スヘシ

通常人民ハ滿二十一歳ヲ以テ丁年者トスレモ國王ハ特リ滿十八
歳ヲ以テ丁年者トス

誓約ハ王位ニ即ク時ニ之ヲ爲スヘシ王國ニ於テハ國王カ崩御ス
レハ皇家血統法及ヒ憲法ニ從ヒ相續ノ權ヲ固有スル者直チニ王
位ヲ繼クヘシ共和政事國ニ在テハ全ク之ニ異ナリ故ニ其王國ニ
在テハ佛人ノ所謂王死スレハ王生スルト云フカ如シ國王ハ常ニ
絶ヘルコナキ者トセリ又羅馬ニ於テハ王ハ死スルトナシト云フ
モ亦此意ナリ

故ニ憲法ニ定メタル誓約ヲ爲サルキト雖モ直ニ王位ニ即クモ
ノトス

第五十五條 國王ハ兩院ノ允許ヲ得サレハ同時ニ他國ノ君主タルコ
ヲ得ス

例ヘハ千八百六十六年ニ若シ「ハノーフル」ヲ普國ニ合併セズシ

テ止タ普國王カ「ハノーフル」王ヲ兼子タルコヲ爲セハ是レ則チ
一王ニシテ兩國ノ王ヲ兼ヌルモノカレハ必ス兩院ノ允許ヲ得ヘ
キモノトス併ナカラ「ハノーフル」ハ現ニ普國ニ合併シ既ニ其國
境ヲ變シタル者ナレモ亦法律ヲ發シテ之ヲ定メリ(第二條)

第五十六條 國王ノ幼年ナルカ又ハ續テ政事ヲ行フコト能ハサルキハ
最モ王位ニ近キ丁年ノ血統(第五十三條)者攝政タルヘシ其攝政タ
ル者ハ直チニ兩院議員ヲ召集シ集合會ニ於テ攝政ノ必要ナルヤ否
ヲ決定セシムヘシ

國王カ幼年ナルカ又ハ白痴ナルカ又ハ續テ知覺精神ヲ喪失シ政
權ヲ執ルコト能ハサルキ(他國ニ於テハ白痴ニシテ政權ヲ執ルコ
ト能ハサル者ハ始ヨリ王位ニ即カシメズ)ハ最モ王位ニ近キ血統

者カ自カラ攝政ヲ爲スノ權アリ然レモ攝政者ハ直チニ上院下院ノ議員ヲ會同シテ攝政ヲ爲スノ要件アルヤ否ヲ評議セシムヘシ若シ其席ニ於テ要件ナシト決定シタルモハ直ニ其攝政ヲ止ムヘシ例ヘハ普國ニ於テ「フリドリ―ヒウイルレム」第四世カ王位ニ即キタル後知覺精神ヲ喪失シタルモ國王ノ弟則今帝カ攝政ヲ爲セリ何トナレハ「フリドリ―ヒウイルレム」第四世ハ一子ヲ設ケサルヲ以テ今帝カ則チ王位ニ最モ近キ血統ニアリシ故ナリ

第五十七條 丁年ノ血統者ナク且預メ法律ヲ以テ其場合ヲ定メサルモハ内閣ヨリ兩院議員ヲ召集シ集合會ニ於テ攝政タルヘキ者ヲ選定セシムヘシ其選ハレタル者カ攝政タルマテハ内閣ニ於テ其政ヲ掌ルヘシ

一、本「丁年」ノ
上ニ「父屬」ノ
字アリ又「内
閣」ヲ「議院」
ニ作ル

丁年ノ血統者ナキノミナラス白痴者ナリト雖モ亦此場合ト同一ナリトス若シ血統ノ死シ絶ヘタルモハ如何スヘキヤハ此條ニ定メス蓋シ其場合ニハ本條ヲ引用シ預シメ法律ヲ發シテ之ヲ定ムルカ又ハ未タ定メナキモハ内閣ニ於テ此以上ノ手續ヲ爲スモノナラン

第五十八條 攝政タル者ハ國王ノ名義ヲ以テ其政權ヲ行フヘシ又攝政タルノ後兩議院集合會ニ於テ王國ノ憲法ヲ遵奉スヘキヲ及ヒ憲法ト法律ニ從テ政務ヲ施行スヘキヲ誓約スヘシ其誓約ヲ爲スマテハ如何ナル場合ニテモ内閣ニ於テ其施政ノ責任ヲ負フヘシ

國王ノ政權ハ都テ攝政者ニ於テ之ヲ行フヲ得止タ攝政者ノ名

ヲ用ヒス國王ノ名ヲ以テ爲スノ違アルノミ其責任ヲ負ハサル
モ國王ト異ルコナシ

法律ヲ發スルモハ國王ノ名ヲ以テ攝政某兩院ノ允許ニ因リ云々
ト記スヘシ

第五十九條 ヨロシタ國王ノ年金ハ千八百二十年一月十七日ノ法律ニ因リ土

地山林ノ收入高ヨリ分配シタル年額金トス

普魯西國ノ土地山林ハ漸ク増加シテ巨大ナルモノトナレリ此土

地山林ハ盡ク政府ノ所有ニ屬セリ其收入高ノ内(王ノ年金ヲ引キ

惣高七千三百八十万餘マルク)ヨリシテ國王及ヒ其家族ノ費用

ニ充ツルカ爲メ一定ノ年額金ヲ法律ニ因テ定メリ其高ハ千八百

二十年ノ法律ニテハ二百五十七万三千九十八三分ノ二タール

ト定メタリ其後千八百五十九年一月一日ニ法律ヲ發シテ五十万
タールルヲ政府ノ純粹ノ收入ヨリ之ヲ増加シテ三百七万三千九
十八三分ノ二タールト爲レリ其後千八百六十八年一月廿七日
ニ又法律ヲ發シテ百万タールルヲ増加シテ四百七万三千九十八
三分二タールト爲レリ未タ憲法ヲ設ケサル間ハ國王カ勝手ニ
其高ヲ増加スルコトヲ得タレモ今日ノ立憲政体ニ至テハ必ス法律
ニ因ラサレハ其高ヲ増加スルコトヲ得ス此高ヲ稱シテ「チビリス」
ト云ヘリ「チビリス」ハ政府ノ收入高ヨリ國王及ヒ家族ノ費用
ニ充ツル高ヲ定メタルモノヲ云フナリ英國ニテ所謂「チビリス」
ト「普國」ニテ所謂「相同シキモノハ「チビリス」ハ必ス法律ヲ
定ムルコト同シキノミナリ然レモ英國ニ於テハ各王毎トニ其高

ヲ定メ且各皇族毎トニ其高ヲ定ムレハ普國ニ在テハ一定ノ法律ヲ以テ之ヲ定ムルト國王ノ得ル高ノ内ヨリ皇族ニ分配スルトノ違アリ且夫レノミナラス王城公園地マテノ費用ヲ其内ヨリ自辨スヘキモノトセリ(千八百二十年ノ法律ニ因レハ二百五十万「タ」レル「丈」ケハ政府ニ屬スル山林土地ノミヨリシテ王ノ爲メニ出シタルモノニシテ是レハ今日ニ至テモ會計豫算表ニハ掲載セス只タ其増加高ノ百五十万餘ノミヲ年金増加高トシテ記入スルノミ)故ニ普國ノ他國ト異ル所ハ皇族カ政府ニ對シテ費用金ヲ求ムルノ權ナク又國王ヨリ皇族ニ分配スル金高ノ多少ニ付テハ毫モ政府ノ關係スル所ニ非スシテ國王ノ隨意ナリトス

「コロンズフヒデコンミスホン」ノ外ニ王ノ私有ニ屬スル財産ニ國王ノ年金

アリ皇家ニ代々屬スル「ハウズ」又ハ「フハミリ」「フヒデコンミス」ト云フ者アリ是レハ政府ニ屬スルモノニ非スシテ皇家ノ世祿ナルモノナリ而シテ國王ハ止タ其所得ヲ得ルノミニシテ其實物ハ國王ノ隨意ニ爲スコヲ得ス此外ニ國王ノ私有財産アリ是レハ國王ノ位ニ即ク前ヨリ所持スルモノト即位ノ後以上二年^{年金}フ^{ヒデコ}ノ所得ヨリ貯蓄シタル物ヲ合シタルモノナリ此財産ハ國王ノ隨意ニ所分スルコトハ勿論ナリ故ニ之レハ遺囑贈遺ヲ爲スコヲ得ルルモノナレハ以上ノ二ツハ爲スコヲ得サルナリ 普國王ハ代々自カテ國家ノ最高ノ臣下ト看做シテ政務ニ盡カスルノミナル故ニ蓄財ノコトニ盡カセズ是ヲ以テ他ノ小國王ヨリハ貧ナリシナリ是レ嘉ニスヘキ所ナリ

第四編 諸省ノ卿

第六十條 卿並ニ卿ヲ代理スル官吏ハ兩院ノ議場ニ臨ミ且何時ナリ

トモ自ラ求メテ發議スルノ權アリ

各議院ハ卿ノ臨席ヲ求ムルコトヲ得

卿ハ兩院ニ於テ其議員タリシトニ限り投票ヲ爲スノ權アリ

卿ヲ代理スル官吏トハ議院ニ出テ、卿ヲ代理スルカ又ハ卿ヲ輔

助スル者ニシテ之ヲ「レギールングスコツミサール」ト稱ス卿又

ハ代理人ヨリ議長ニ求メ發議スルニハ他ノ議員ノ如キ順序ニ從

フニ及ハス卿ノ臨席ヲ求ムルモノハ卿ハ國王ノ責任ヲ負フ可キ

人ナレハナリ併ナカラ議院ニ權力ニナキ時ニ於テハ無益ニ屬ス

ルモノナリ若シ卿ノ臨席シテ默止シタルトハ之ヲ求ルモ其効ナ

シ既ニ「ビスマルク」カ六十年代ニ議院ニ出テ、默止セルカ如シ

何トナレハ本條ニテハ止タ臨席ヲ求ムルトアレハ必スシモ發議

ヲ爲サシムルコト能ハス

普國ニ於テハ「ミニストル」ハ「ビスマルク」ヲ除クノ外大抵下院ノ

議員ナリ併ナカラ上院ノ議員ヲ兼ヌルコトハ實際甚タ稀ナリ

第六十一條 卿ハ一院ノ決議ニ因リ憲法ニ背キタルコト又ハ賄賂ヲ受

ケタルコト又ハ叛逆ノ爲メニ告訴セラレ、コトヲ得其告訴事件ハ王國

ノ最上裁判所ノ全員會ニ於テ判決スヘシ

二箇ノ裁判所トハ「ライベルトリブナール」一ハ「ライニヒレビダ」

ニス、ヨンドカツサチランスホーフナリ千八百五十二年三月十七日ノ

法律ヲ以テ之ヲ合併シテ一ト爲シ「ライベルトリブナール」ト云ヘリ又

之ヲ千八百七十八年四月廿四日ノ獨逸裁判編制法ヲ普國ニ施行スル

法律第十二條及ヒ千八百七十九年十月一日ノ布告ニ因テ廢止シタリ

責任ヲ負ヘキ場合及ヒ裁判手續若クハ其處刑ノ詳細ハ法律ヲ發シ
テ之ヲ定ムヘシ 未タ其法律アラズ

憲法第四十三條第四十四條ニ從ヘハ國王ノ爲シタル政務ノ責任ハ卿ニテ負擔スヘシト定メリ其責任ニハ道德上ノ責任ト法律上ノ責任トアリ法律上ノ責任ハ民法上ノ責任及ヒ刑法上ノ責任トアリ法律上ノ責任ハ一般人民ノ如ク通常裁判所ニテ所分セラル、
 一ハ明カナリ然レモ憲法及ヒ法律ニ定メタル權限ヲ犯シ又ハ賄賂叛逆ニ至テハ刑事裁判所ニテ所分スルコトヲ得ス何トナレハ刑法中ニ憲法ヲ破リタルコトノ正條ナク又賄賂叛逆ノ罪ヲ特ニ憲法ニ掲クレハナリ且實際卿ノ屬官タル檢事ヨリ其卿ヲ告訴スルコトヲ得サレハナリ故ニ別ニ告訴スル所ヲ定ムヘシ英米國ノ憲法ニ因レハ下院ノ糾彈ニヨリ上院ニ於テ之ヲ裁判セリ普國ニ於テモ此例ニ倣ヒ略之ニ似タル箇條ヲ憲法中ニ設ケタレモ其責任ノ場

合裁判手續等ニ付テノ法律ハ未タ發セサレハ實際ハ卿ヲ告訴スルコトヲ得ス「グナイスト」カ云ヘル如ク憲法ニ掲ケテ實際ニ施スル能ハサルヨリハ寧ロ箇條ノナキニ勝レリト何トナレハ箇條アレハ却テ道德上ノ責ヲ減スルノ害アレハナリ普國憲法ハ白耳義ノナレハ或ハ有名無實ナルモノ多シ已ニ六十年代頃ニハ憲法ノ意義ニ付キ種々爭アリシ畢竟他國ノ物ヲ持來ルカニハ見解種々異リアルナリ

第五編 議院ノ事

第六十二條 立法權ハ國王ト兩議院ト共ニ之ヲ行フヘシ千八百五十五年五月三十

十日ノ法律第一條ニ因リ今ヨリ上院ヲ「ヘーレンハウス」下院ヲ「ハウス」
 デルアブゲヨルド子テント稱シ兩院ヲ合シ之ヲ「バイデホイゼル」
 ランドターゲス」ト稱スヘシ

法律ヲ設クルニハ國王ト兩議院ノ一致ヲ緊用ナリトス

會計法及ヒ會計豫算表ハ先ツ下院ニ出スヘシ會計豫算表ニ付テハ上院ニ於テ止タ全体ニ付キ可否ヲ爲スヘシ

人民ノ代議士ハ立法ニ加ハルノ權アリ立法權ハ國王ト兩議院ト共ニ之ヲ行フノ文字ハ甚タ穩當ナラス是レハ國權ヲ三分シタルトヨリ由來スルモノナリ一体立法權ハ憲法第四十五條ニ掲ケルカ如ク全ク國王ニ屬スルモノトス普國ニ於テハ上院ヲ「ヘールンハウス」ト云ヒ下院ヲ「ハウステルアブゲヨルド子テン」ト云フ第二項ハ布告ノ法律ト相異ナル所ヲ云フナリ法案ハ先ツ何レノ議院ニ差出スヘキヤノ順序ニ付テハ一定ノ規則ナシ或ハ先ツ下院ニ出シ或ハ先ツ上院ニ出スコトアリ然レモ第三項ハ其格外ニシテ必ス先ツ下院ニ差出シ然ル後上院ニ於テ之ヲ議スヘキ者ヲ云

フ上院ニ於テハ會計豫算表ニ付テハ各條ニ付キ議スルコトヲ得ス止タ全体ニ因テ可否ヲ決スルノミナリ何故ナレハ會計豫算表ハ甚タ煩雜ナル者ニシテ之ヲ上院ニ詳細ニ論セシムルハ容易ニ結着スルコト能ハサルト及ヒ稅ノコトハ人民ノ代議士タル下院ニ於テ專ラ擔任スレハナリ

第六十三條 公安ヲ維持スル爲メ又ハ非常ノ場合ニ於テ已ムコトヲ得サル時ハ兩議院閉院中内閣ノ責任ヲ以テ憲法ニ背カサル布告ヲ發シ法律タルノ効力ヲ有セシムルコトヲ得然レモ其布告ハ次キノ兩院ノ開キタル時其允許ヲ得ヘシ

國家ハ已ムコトヲ得サル困難ニ於テハ通常ノ手數ヲ經スシテ法律ヲ發スヘキコトアリ英國ニハ別ニ憲法ニ定メスシテ政府ノ責任ヲ

以テ臨時法律ヲ發シ然ル後兩議院ノ允許ヲ得ルコトアリ普國ニ於テハ憲法ニ之ヲ掲ケリ其憲法ニ因レハ公安ヲ維持スルカ又ハ非常ノ時機ニ臨ミ已ムコトヲ得ス法律ヲ發スヘキ場合議院ノ閉院中ノ場合臨時發スル法律ノ憲法ニ抵觸セサル場合此等ノ場合ニハ兩院ヲ經スシテ布告ヲ發スルコトアリ此布告ハ第四十五條ニ掲クル所ノ布告トハ全ク性質ヲ異ニスルモノニシテ則法律同様ノ効力ヲ有スルモノナリ此臨時布告ヲ發シタルキハ必ス後會ノ議院ニ差出シテ其允許ヲ受クヘシ然レモ憲法ニ於テ兩院中一院之ヲ否トスルノ場合ヲ定メス或ハ否トシタルキハ自然其効力ヲ失フ者トシ又或ハ否トシタルキハ別ニ布告シテ其効力ヲ失フコトヲ公布スヘシトセリ余ノ考フル所ニ因レハ否トシタルキト雖モ公布

スルマテハ人民ハ勿論裁判官ト雖モ其布告ヲ遵奉スヘキモノト思考ス普國ニ於テハ六十年代頃ニ憲法ニ付キ爭ヒアリシキ兩院ヲ解散シテ出版條例ノ甚タ酷ナルモノヲ布告シタリ其後兩院ヲ開テ其布告ヲ差出シタルニ憲法ニ定ムル已ムコトヲ得サルノ場合ハ全ク之レナリ且又其事柄ヲ允許セサルニ因テ廢案ト爲リシカ如シ

第六十四條 國王并各議院ハ法案ヲ提出スル權アリ

兩院ノ一院又ハ國王ヨリ否トシタル法案ハ同會ニ於テ再ヒ之ヲ提出スルコトヲ得ス

國王ト兩院ハ自カラ法案ヲ提出スル權ヲ有スレモ上院ハ會計法及ヒ豫算表ニ付テハ提出スルノ權ナシ又政府ノ法案ハ先ツ何レ

ノ議院ニ提出スルモ政府ノ勝手タレモ會計法及ヒ會計豫算表ハ必ス先ツ下院ニ出スヘシ又都テノ法案ハ一タヒ廢案ト爲リタル者ハ同會ニ於テ再ヒ之ヲ提出スルコトヲ得サルナリ

法案ヲ提出シタル時ハ議院ニ於テ之ヲ議ニ付スルコトヲ拒ムコトヲ得ス必ス議ニ付シタル上可否ヲ決スルカ又ハ之ヲ修正スルコトヲ得可トシタル時ハ則法律ト爲リ否トシタル時ハ廢案ト爲リ修正シタル時ハ他ノ議院ノ議ニ付シタル後又之ヲ可否スヘシ

其修正ハ本條ノミニ限ラス書式及ヒ法律ノ名ニ及フモノニシテ事柄ヲ修正スルコト文字ヲ修正スルコトアリ是等ノ權ハ兩院トモ全ク異ナラス

此ノ如ク兩院ヲ經テ可ト決シタル上ハ最後ニ議シタル議院長ヨ

リ其法案ヲ宰相ニ差出スヘシ宰相ハ之ヲ國王ニ差出シ國王ハ其法案ヲ許可スルト否トヲ決スヘシ許可シタル時ハ之ヲ「サンクチヤン」ト云フ其後其法案ヲ淨書シ國王ノ印ヲ捺ス之ヲ「プロモカチヤン」ト云フ且諸省ノ卿之レニ手署ス是等ノ手續ノミニテハ未タ真正ノ法律トナラス之ヲ公布シタルコトニ因リ始テ法律ト爲ルナリ通常其効力ヲ得ルコトハ公布シタル數ケ月後ヨリ得ルモノナリ若シ法律ニ効力ヲ得ヘキ期日ヲ掲ケサル時ハ法律ヲ公布シタル所ヨリノ距離ニ從テ八日又ハ十四日ノ後ニ効力ヲ得ルモノナリ公布スルニハ往日ハ市中ヲ呼ヒ歩キ或ハ公ケノ場所ニ張付シ或ハ寺ニテ言聞カセタレトモ今日ハ佛ノ例ニ倣ヒ法律集ヲ以テ公布スルナリ畢竟議院ノ會議ニ於テハ法律ノ事柄ヲ確定ス

ルノミニアリテ之ヲ允許スルト公布スルトハ國王ノ特權ニアリ
故ニ立法ノ權ハ獨リ國王ニアリト云フモ仍ホ可ナリ

第六十五條ヨリ第六十八條マテ舊各條ハ明瞭ナラス上院ハ國王ヨリ布告ヲ發

シテ之ヲ組立ツヘシ其布告ハ兩院ノ允許ニ因テ發シタル法律ヲ以テノミ之ヲ變スルコトヲ得

上院ハ國王ヨリ代々或ハ終身其議員ト爲ルヘキ權ヲ與ヘタル議員ヲ以テ成立ツヘシ

千八百五十四年十月十二日ノ布告ニ因レハ左ノ如ク上院ヲ組立テリ千八百五十三年ニ一タヒ發シタル布告ヲ廢シ而テ之ヲ設ケタリ此布告ハ現今仍ホ行ハルモノナリ

第一條 上院ハ左ノ者ヨリ成立ツヘシ

一皇族ノ丁年者ニシテ國王ヨリ議員ニ任シタル者

プリンツスニキローニグリヘンヤセス

二代々議員ト爲ルヘキ權ヲ有スル者

三終身議員ト爲ルヘキ權ヲ有スル者

第二條 代々上院ノ議員ト爲ルヘキ權ヲ有スル者ハ左ノ如シ

一「ホエンツアルレルンヘツシンゲン」及ヒ「ホエンツアルレルン

シグマリソングン」侯家ノ戶主小國ニシテ自カラ其國ヲ治ルコト能ハサルニ因リ條約ヲ以テ普國

ニ國守ノ權ヲ讓リ普國ニ屬シタル國ニシテ普國ヨリ特權ヲ得セシ者ナリ是等ハ普國王ノ血族ナリ

二、千八百十五年六月八日ノ獨逸憲法ニ從ヒ領主ノ權ヲ奪ヒ止

タ其位ヲ與ヘタル諸侯ノ戶主獨逸帝國ノ臣ノ直臣ニシテ普國王ノ血統ニ非ス

三、千八百四十七年二月三日ノ布告ニ從ヒ召集シタル國會ノ

諸侯 伯子

ヒルステン ガラーヘンハーレン

其他國王ヨリ布告ヲ發シテ代々上院ノ議員ト爲ルヘキ權ヲ

附與シタル者

第三條 終身上院ノ議員ト爲ルヘキ權ヲ有スル者ハ左ノ如シ

一次條ニ從テ國王ニ申立テラレタル者

二普國ニ於テ四ノ顯官ニ即キシ者則チ「ヲベルブルガラーフ、
ヲ、ベルマルシヤル、ランドホーフマイステル、カンツレル」、
古ヘ普國ハ獨逸帝ニ對シテ獨立シタル國ニシテ帝國ニ設ケタ
ル四ノ官名ニ倣テ設ケタルモノナリ其職務ハ多クハ宮内ノ
事ヲ掌ルナリ今日ハ止メ普
魯西州ノミニ其官名アリ

三別段ノ信用ヲ有スル者ヲ國王ヨリ選任スル者其内ヨリ國王

附ノ法學者ヲ命シ其王家ノ法律ニ關シ其意見ヲ聞キ又ハ之

ヲ取扱ハシムル者ナリ

第四條 左ニ掲クル者ハ上院議員ヲ申立ルノ權アリ

一、千八百四十七年二月三日ノ布告ニ從テ召集シタル國會ニ

加ハリタル宗旨ヲ防護ス團結爲メノ團結

二各州ニ於テ貴族ノ有スル土地ヲ所持スル伯伯爵ノ組合

三有名ナル家名ヲ有スル者ニシテ國王ヨリ特權ヲ與ヘタル者

ノ組合

四代々一家ニ屬スル古キ土地ヲ所有スル者ノ組合 古キトハ少ク五

十年ヲ經ルモノヲ云フ

五各大學校

六特權ヲ有スル郷

第五條 團結ヨリ申立ル代理人ハ團結ニテ其内ヨリ大學校ヨリ

申立ル代理人ハ大學校ノ「セナート」ニテ正博士ノ内ヨリ郷ヨ

リ申立ル代理人ハ郷官ニテ又ハ郷官ノナキ所ニ於テハ其他ノ郷ノ代理ニテ郷官中ヨリ選舉スヘシ

第六條 代々古キ土地ヲ有スル組合(第四條第四)ノ編制及ヒ申立權(第四條ノ一ヨリ六)ヲ行フ爲メノ細則ハ國王ヨリ發スヘシ(千八百六十五年ニ發セリ)

第七條 上院ノ議員ト爲ル者ハ普魯西國ノ臣民ニシテ公權ヲ有シ且國內ニ住所ヲ有シ外國ノ官員ト爲ラサル者
其他皇族ノ外ハ三十歳以上ノ者タルヘシ

第八條 上院ノ議員タル權ハ第四條ヨリ第六條マテニ從テ申立テラレテ議員ト爲ル者ニアリテハ申立ルニ必用ナル要件ヲ失ヘハ自ラ議員タルノ權ヲ失フヘシ

本條第二項ニ因レハ代々又ハ終身其權ヲ有スル者トアレモ法律
第三條ニ因レハ終身ニアラスシテ議員ト爲ルコトヲ得是レ其抵觸ヲ爲スモノナリ且上院ノ組立方ハ甚タ惡シキ所アリ止タ其大ナル土地ヲ所有スル者ニ注目シテ勳功ヲ有シ動産ヲ有スル者ニ注目セス獨逸ニテハ侯伯ハ大ナル土地ヲ有スルヨリ議員ニ爲ルナリ英國ニアリテハ全ク之ニ異ナリ則貴族ハ土地ニ關係スルコトナクシテ政府ニ勳功アルニ因テ議員ト爲ルヲ得ルナリ
貴族ト平民ノ間ニハ別ニ其間隔ナシ 例ヘハ貴族ト人民ト婚姻ヲ爲シ或ハ次男ハ平民ノ籍ニ入ルノ類平民ハ又勳功アレハ貴族ト爲ルコトヲ得ルナリ獨逸ニ在テハ全ク之レト反對セリ
上院ノ議員ハ公權ヲ剝奪セラル、カ又ハ行狀惡シクテ其名譽ヲ損スヘキ時ハ上院ニテ決議ノ上國王ノ許可ヲ得テ其權ヲ失ハシ

ムルコヲ得其豫審中ハ其權ヲ行フコトヲ停止スルヲ得其終身權ヲ有スル者ナレハ別ニ他ノ手續ヲ要セス代々權ヲ有スル者ナレハ國王ヨリ別ニ他ノ家族ヲ選ミ之ニ代ハラシム申立ニ因リタルモノナレハ更ニ他ノ者ヲ申立ヘシ

現今議員ノ員數ハ二百七十四人アリ併ナカラ其數ニハ時々變更アリ

第九條 上院ノ議員タルノ權ハ普國刑法第十二條第二十一條ノ場合ノ外ニ議員ヨリ國王ノ認可ヲ得タル議決ヲ以テ榮譽ヲ汚カストスルカ又ハ不品行ノ爲メ議員ノ榮譽ヲ害スルトシタルトハ其權ヲ失フヘシ

第十條 議院ニテ審問ノ爲メ又ハ其他重大ナル事由ニ因テ一時議

員タルノ權ヲ停止スヘシト認メタルトハ國王ノ許可ヲ要ス

第十一條 上院ノ議員タルノ權ヲ失ヒタルトハ世襲ノ權ヲ有スル者ナレハ國王ヨリ其家屬ノ選舉ヲ定ムヘシ第四條ヨリ第六條ニ從テ申立ラレタル者ナレハ國王ヨリ別ニ申立テシムヘシ千八百六十五年十一月十日ノ世襲ノ古キ土地所有者ノ組合編制及ヒ此組合並ニ「ガラーフ」ノ組合ヨリ申立ツヘキ議員選舉ニ關スル布告

第一條 附録ノ世襲ノ古キ土地所有者組合ニ於テ申立人ヲ選舉スヘシ「プロイセン」州ニ於テハ十八人「ブランデンブルヒ」州ニ於テハ十五人「ボンメルン」州ニ於テハ十三人「シコロイヂエン」州ニ於テハ十八人「ボーゼン」州ニ於テハ七人「サクソン」州ニ於

テ八十人「ウエストハーレン州ニ於テハ四人「ラインランド」ニ於テハ五人ナリトス通計九十人

第二條 古キ土地トハ議員申立ノ時少クモ五十年間一家族ニテ所有スル武士領ヲ云フナリ

第三條 世襲ノ土地トハ相續法ニ因テ男子ノ血統ニテ相續スル武士領ヲ云フナリ「レーン」拜領地「マヨラート」嫡男相續「ミノラート」末子相續「ヒデーコンミス」同姓相續等

第四條 世襲ノ古キ土地所有者組合及ヒ侯組合ニ於テ申立權ヲ行フ者ハ千八百五十四年十月十二日ノ布告第七條ノ要件ヲ有スヘシト雖モ其年齡ハ廿五歳ヲ以テ足レリトス

第五條 世襲議員タルノ權ヲ有スル者ハ侯組合及ヒ世襲ノ古キ土地組合ニ於ケル選舉ニ加ハルコトヲ得ス併ナカラ侯組合ノ者ニシテ其武士領ノ性質ニ因リ世襲ノ古キ土地所有者組合ノ選舉ニ加ハル權ヲ有スル者ハ又其選舉ニ加ハルコトヲ得

第六條 侯組合又ハ世襲ノ古キ土地所有者組合ノ選舉ニ加ハル權アル武士領數人ニ屬スルキハ止タ一箇ノ投票權ヲ有スヘシ併ナカラ其他ノ者ハ其他ノ要件アレハ選舉セラル、コトヲ得

第七條 數箇ノ侯組合又ハ世襲ノ古キ土地所有者組合ノ選舉ニ加ハル權ヲ有スル者ハ其組合毎ニ選舉權ヲ有スヘシ

第八條 侯組合又ハ世襲ノ古キ土地所有者組合ノ選舉ハ其組合中ノ者ヨリ選フヘシ

第九條 選舉手續ハ千八百四十二年六月廿二日ノ等族選舉規則